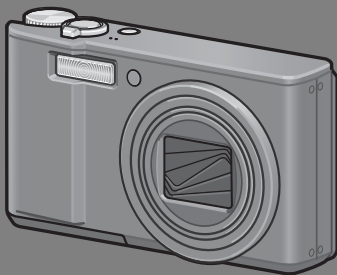
RICOH

CX1

使用説明書　カメラ編
（保証書付）

本製品のシリアル番号は、
本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、Eメール（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について
安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

テスト撮影について
必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。

著作権について
著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。

ご使用に際して
万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書について
本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

電波障害について
他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。
・テレビやラジオなどからできるだけ離す
・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
・コンセントを別にする
<電波障害自主規制について>
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って発生する可能性がある内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示の例

❶記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
⃠の中に具体的な禁止内容が描かれています。
● 表示例
意味：接触禁止　意味：分解禁止

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠危険

● カメラを分解、修理、改造しないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険があります。

● バッテリーを分解、改造、直接ハンダ付けしたりしないでください。

● バッテリーを火の中に投入したり、加熱したり、火のそばや車の中など温度が高くなる場所で使用したり、放置しないでください。また、水や海水などにつけたり、濡らさないでください。

● バッテリーに釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えないでください。

● 外傷、変形の著しいバッテリーは使用しないでください。

⚠警告

● 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態がみられる場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り外してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

● 万一、機械内部に異物（金属、水、液体など）が入った場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーとメモリーカードを取り出してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。

● 画像モニターが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一、次の状況になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。
- 皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水を流しせっけんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分洗浄した後、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を与えて吐き出させた後、医師の手当てを受けてください。

● バッテリーの液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
- この製品で指定しているバッテリー以外は、使用しないでください。
- 金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。
- 使用中や充電中、液漏れしたり、異臭がする、変色するなどの異常がある場合は、ただちにカメラやバッテリーチャージャーから取り外し、火気から遠ざけてください。

● バッテリーの充電による火災、感電、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
- 表示された電源電圧以外の電圧を使用しないでください。また、タコ足配線や延長コードの使用は避けてください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。また、電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。
- 布などに包んで使用しないでください。

● この製品で使用しているバッテリーや SD メモリーカードを誤って飲み込むことがないよう、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。ただちに医師と相談してください。

● この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供には「安全上のご注意」や「使用上のご注意」の内容が理解できずに事故発生の原因となります。

● 落下や損傷により内部が露出したときは、内部には手を触れないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険性があります。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り出してください。破損したときは、お買い上げの店またはリコー修理受付センターに連絡してください。

● 台所などの湯煙や湿気の当たるところ、水気のあるところでは使用しないでください。火災や感電の原因となります。

● 引火性ガスやガソリン、ベンジン、シンナー等の近くで使用しないでください。爆発や火災、火傷の原因となります。
● 航空機の中など、使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。事故等の原因となります。

● 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。
● 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用の AC アダプターをご利用ください。指定以外のACアダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。

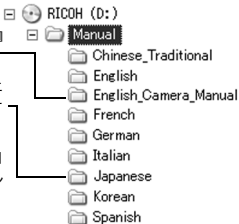
● 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などにバッテリーチャージャーやACアダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠注意

● バッテリーから漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損したバッテリーに触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。(せっけんは使用しないでください)
また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しいバッテリーを入れてください。

● 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。

● カメラを濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。

● 車両（自転車、車、列車等）の運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。交通事故等の原因となります。

別売り品について	別売り品をお使いになるときには、各製品の使用説明書を操作の前に必ずお読みください。

使用説明書の構成について

CX1には、次の2種類の使用説明書が付属しています。

	『使用説明書（カメラ編）』（本書）
	カメラの使いかたや機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。 ※英語版の『使用説明書（カメラ編）』は、PDFファイルとして、付属のCD-ROMに収録されています。
	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）
	『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の以下のフォルダに収録されています。 カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。 英語版の『使用説明書（カメラ編）』（PDFファイル） 各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。 使用説明書をハードディスクにコピーするには、それぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェアIrodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

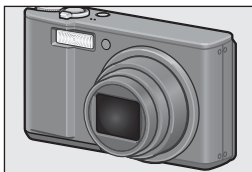
Irodio Photo & Video Studioについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター
TEL：06-6633-3900
FAX：06-6633-2992
〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F

受付時間：月曜日～日曜日
10：00～17：00
（年末年始、祝祭日、株式会社ピクセラ指定休日は除く）

また以下のページで、Irodio Photo & Video Studioの最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/

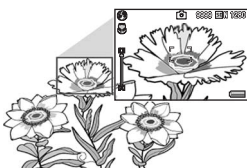
このカメラでできること

※ 本書内のイラストは、実物とは異なる場合があります。また、画面の一部を拡大して記載しています。

7.1倍高倍率ワイドズームレンズを搭載

薄型コンパクトボディに、28～200mm相当（*）の広い撮影領域をカバーする光学7.1倍ワイドズームレンズを搭載。室内から風景まで、さまざまな撮影シーンに対応できます。

（*）35mm判カメラ換算値です。

手ブレ補正機能で、手ブレを抑えた安心撮影（P.116）

手ブレ補正機能を装備。室内や夜景などの手ブレしやすい場面でも、手ブレを抑えた撮影ができます。

1cmマクロ対応（P.40）
望遠時25cm、広角時20cm対応近接フラッシュ（P.42）

被写体に広角端1cm、望遠端25cm（レンズ先端より）まで近づいて撮影可能な接写機能を搭載。

フラッシュは広角端20cm、望遠端25cmの近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。

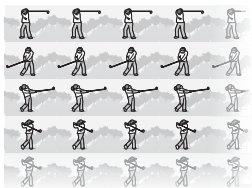
ダイナミックレンジダブルショット機能を搭載（P.82）

カメラが記録可能な輝度の範囲（ダイナミックレンジ）を拡大して撮影します。明暗差の大きい被写体の白とび、黒つぶれを軽減した画像を記録できます。

マルチパターン・オートホワイトバランス（P.120）

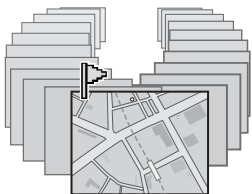
日向と日陰、またはフラッシュの光が当たっている個所と当たっていない個所が混在する状況で撮影する場合は、ホワイトバランスを［マルチパターンAUTO］に設定します。［マルチパターンAUTO］を使用すると、見た目の印象に近い色調で撮影することができます。

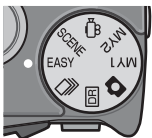
7箇所の合焦ポイントを連続撮影（P.100）

マルチターゲットAFでは、カメラが複数のピント位置を自動検出し、それぞれの位置にピントを合わせた写真を連続撮影します。特に望遠撮影時やマクロモード時などに有効です。

多彩な連写機能（P.85）

1秒間で4枚の連写に加え、シャッターボタンを離す直前の約1秒間で30枚連続撮影する、M連写プラスを搭載。さらに、1秒間で120枚の超高速連写も選べます。動きのある被写体の決定的瞬間を捉えます。

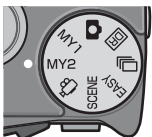
画像の水平出しを補助する電子水準器機能搭載（P.57）

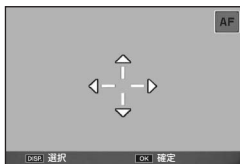
風景や建物の撮影時など、水平のとれた画像を撮影したい場合に便利な電子水準器機能を搭載。画像モニターに表示される水平インジケーターと水準器音で、画像の水平状態を確認することができます。

特定の画像をすぐに表示できる画像クリップ機能（P.134）

旅先でメモとして撮影した電車の時刻表や地図など、すぐに呼び出したいファイルを画像クリップ機能で登録しておくと、Fn（ファンクション）ボタンですぐに表示することができます。

初心者にも安心なイージー撮影モード (P.37)

「画質・サイズ」など、必要最低限の設定のみ可能なイージーモードを搭載。近距離の被写体を撮影する場合は、自動的にマクロモードに切り替わるなど、初心者の方でも安心して使用できる撮影モードです。

高精細画像モニター

3.0型／92万ドットVGA画像モニターの搭載により、ディテールまで鮮明な表示を実現しました。高精細液晶モニターならではの81枚一覧表示では、大量の画像の中から、目指す1コマをすばやく探すことができます。

簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載 (P.81)

オリジナルの設定を2種類登録することができます。モードダイヤルをMY1/MY2に合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができます。

好きな場所にAF、AEをロックできるAF/AEターゲット移動機能 (P.64)

撮影時にカメラを動かすことなく、AF、AEのターゲットをボタン操作だけで移動し、ロックすることができます。

撮影後の画像をカメラで簡単補正 (P.139、141、144)

撮影した静止画の一部分を切り取ったり（トリミング）、明度の自動調整（レベル補正）や色合いの調整（ホワイトバランス補正）をすることができます。補正後の画像は新たなファイルとして記録されます。

もくじ

基本編 13

はじめてお使いのときは必ずお読みください

応用編 61

目的に応じて必要なときにお読みください

5　いろいろな再生　126

6　再生設定メニュー　132

7 セットアップメニュー 159

8　ダイレクトプリントで印刷する　191

9　画像をパソコンに取り込む　197

10 付録　212

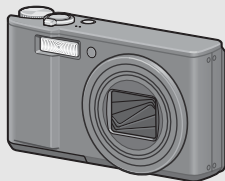
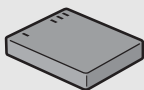
基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。
※同梱品の形状は、実際とは異なる場合があります。

CX1

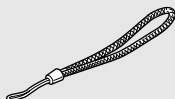
本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

リチャージャブルバッテリー

バッテリーチャージャー

USBケーブル(mini Bタイプ)

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。

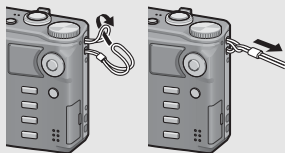
ハンドストラップ

使用説明書（カメラ編）

（本書）

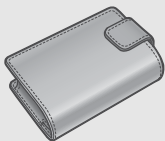
CD-ROM（☞P.197）

ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。
Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することは可能です（パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ）。

メモ

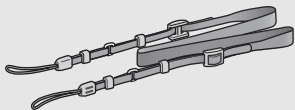
ハンドストラップのつけかた
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

別売り品について

ACアダプター（AC-4g）
家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。

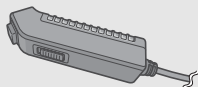
ソフトケース（SC-90）
本カメラのカメラケースです。

ネックストラップ（ST-2）
「RICOH」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。

リチャージャブルバッテリー（DB-70）
本カメラで使用できる充電池です。

バッテリーチャージャー(BJ-7)
リチャージャブルバッテリー(DB-70)を充電するための充電器です。

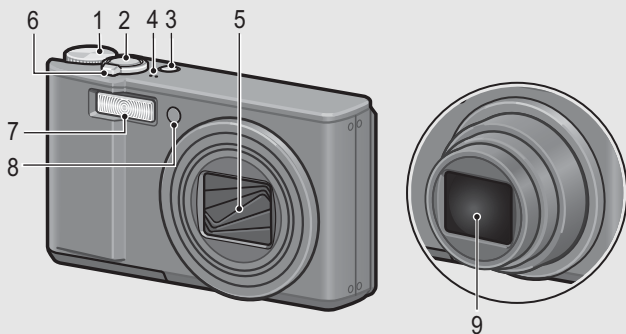
ケーブルスイッチ（CA-1）
カメラのUSB端子に接続して、シャッター操作を行います。

メモ

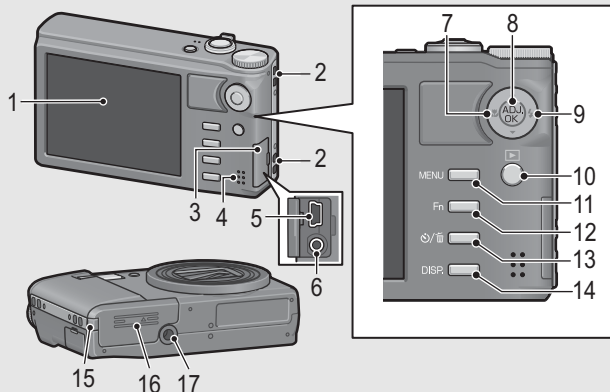
ネックストラップのつけかた

ネックストラップの先端を結合部より外し、図のように取り付けます。

- 別売り品についての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc/）をご覧ください。

カメラの各部の名称

カメラ本体

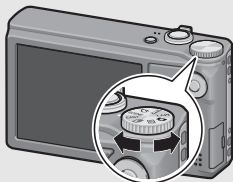
前面

	名称	参照先
1	モードダイヤル	P.19、35、37、74、81、82、85、90
2	シャッターボタン	P.33
3	POWER（電源）ボタン	P.30
4	マイク	P.90
5	レンズカバー	–
6	ズームレバー [♠]（望遠）／[♠]（広角） Q（拡大表示）／▦（サムネイル表示）	P.38、47、49
7	フラッシュ発光部	P.42
8	AF補助光／セルフタイマーランプ	P.44、173
9	レンズ	–

背面

	名称	参照先
1	画像モニター	P.20
2	ストラップ取付け部	P.15
3	端子カバー	P.157、192、206、207、210
4	スピーカー	P.126
5	USB端子	P.192、206、207、210
6	AV出力端子	P.157
7	🌷（マクロ）	P.40
8	ADJ./OKボタン(※)	P.62
9	⚡（フラッシュ）	P.42
10	▶（再生）ボタン	P.45
11	MENUボタン	P.75、96、133、160
12	Fn（ファンクション）ボタン	P.66
13	⏲（セルフタイマー）／🗑（削除）ボタン	P.51、44
14	DISP.ボタン	P.55、57
15	電源（DC入力）ケーブルカバー	P.228
16	バッテリー／カードカバー	P.28、228
17	三脚ネジ穴	P.222

(※) 本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側（または🌷⚡側）に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

モードダイヤルの使い方

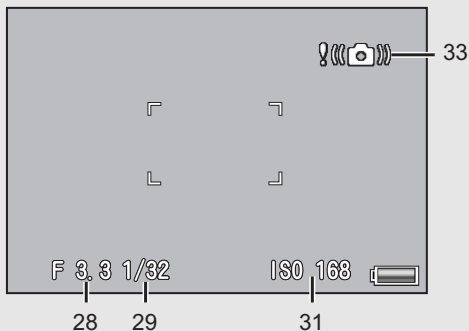
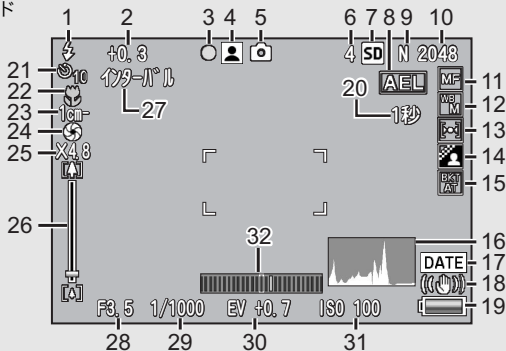
静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
📷	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.35
MY1、MY2	マイセッティングモード	[マイセッティング登録]で設定した内容で撮影します。	P.81
🎥	動画モード	動画を撮影できます。	P.90
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。	P.74
EASY	イージー撮影モード	複雑な設定をすることなく、簡単な操作で撮影することができます。設定を変更できる撮影機能は限られます。	P.37
❏	連写モード	いろいろな連写撮影ができます。	P.85
DR	ダイナミックレンジダブルショットモード	明暗差が大きい場合でも、明るい部分から暗い部分まで自然な画像を撮影できます。	P.82

画像モニターの表示

撮影するときの画面

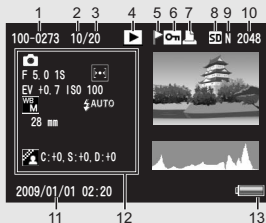
静止画モード

動画モード

	名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.42
2	フラッシュ調光補正	P.106
3	マルチターゲットAF合焦マーク	P.100
4	シーンモード／連写モード／+通常撮影	P.74 P.85
5	撮影モードの種類	P.19
6	残り記録枚数	P.224
7	記録先	P.25
8	AEロック	P.69
9	画質	P.97
10	画像サイズ	P.97
11	フォーカスモード、逆光補正	P.99 P.67
12	ホワイトバランスモード	P.120
13	測光モード	P.103
14	画像設定	P.104
15	ブラケット撮影	P.107、108、110、109
16	ヒストグラム表示	P.60
17	日付入れ撮影	P.118
18	手ブレ補正	P.116
19	電池マーク	P.23
20	長時間露光	P.111
21	セルフタイマー	P.44
22	マクロ撮影	P.40
23	最短撮影距離	P.183
24	最小絞り固定	P.113
25	デジタルズームの倍率、オートリサイズズーム	P.39、P.179
26	ズームバー	P.38
27	インターバル撮影	P.114
28	絞り値	P.221
29	シャッタースピード	P.117
30	露出補正	P.119
31	ISO感度	P.123
32	水平インジケーター	P.58
33	手ブレ注意マーク	P.34
34	記録時間	P.224
35	残り記録時間	P.224
36	フレームレート	P.91

メモ

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	ファイル番号	－	10	画像サイズ	P.97
2	再生ファイル数	－	11	撮影した日付	P.188
3	総ファイル数	－	12	撮影時（記録時）の設定	－
4	モードの種類	－			
5	画像クリップ〔設定〕	P.134	13	電池マーク	P.23
6	プロテクト	P.148	14	記録時間または経過時間	－
7	DPOF	P.153			
8	再生元	P.46	15	インジケーター	－
9	画質	P.97			

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電をお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電してください。

注意 --

ACアダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

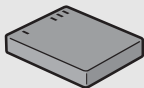
準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ

- すでに電源をオンにした場合は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.30をご覧ください。

電池について

本カメラでは、専用のリチウムイオン電池「リチャージャブルバッテリー DB-70」(付属)を使用します。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

撮影可能枚数

撮影可能枚数(電池の持続)の目安:約300枚

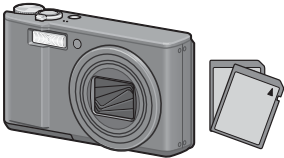
※[画像モニター節電](☞P.178)が[ON]のとき

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。(温度23°C、画像モニターオン、30秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ/オンを繰り返し)
- [画像モニター節電]が[OFF]の場合は、約270枚となります。
- シンクロモニターモードにすると、さらに撮影可能枚数を増やすことができます。(☞P.55)
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間(枚数)が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をおすすめします。

注意

- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品(DB-70)をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーまたはSDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約88MBです。
静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

初期化について ---

新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。また、［使用できないカードです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンや他のデジタルカメラで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。（☞P.162）

記録先について ---

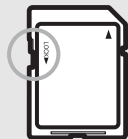
SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

本体のみのとき	SDメモリーカードがセットされているとき
内蔵メモリーに記録	SDメモリーカードに記録

注意 ---

- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す)、削除も初期化もできるようになります。
大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。
なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

メモ

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.46をご覧ください。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。（☞P.224）
- 内蔵メモリーに記録された画像を、SDメモリーカードにコピーすることができます。（☞P.152）

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

注意

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

- 充電には専用バッテリーチャージャー(BJ-7)をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

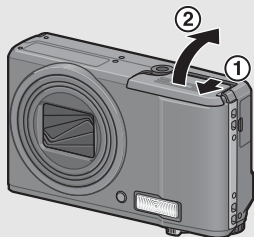
充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーの端子汚れ、またはバッテリーチャージャー／バッテリーの異常（バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてバッテリーを取り外し、乾いた布や綿棒でバッテリーチャージャーの端子をふいてから再度セットしてください。それでも充電ランプが点滅する場合は、バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常が考えられます。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外してください。）

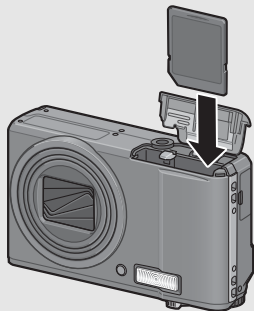
- バッテリーの充電時間の目安は、以下のとおりです。バッテリーの残量により充電時間は異なります。

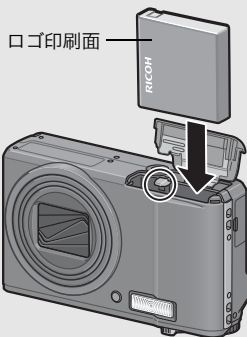
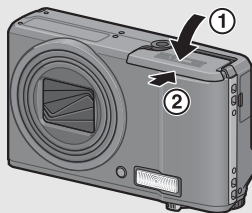
リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-70	約100分（25°C）

リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリーを充電したら、リチャージャブルバッテリーとSDメモリーカードをカメラにセットします。
すでに電源をオンにした場合は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 バッテリー／カードカバーをスライドさせて開ける

2 SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

4 バッテリー／カードカバーを閉じて、スライドさせる

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。リチャージャブルバッテリーをロックしているツメをずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

SDメモリーカードを取り出すときには

バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

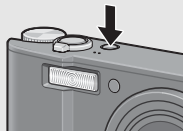
注意

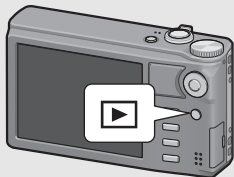
長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

電源をオン／オフする

● 電源をオンにする

1 POWER（電源）ボタンを押す

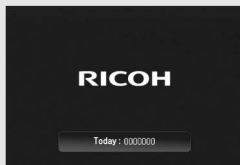
- 起動音が鳴り、画像モニターが点灯します。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを長押しすると、再生モードの状態で電源がオンになり、カメラを再生モードで使用できます。
- ▶ ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度▶ボタンを押すと、撮影モードになります。

注意---

フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

● 電源をオフにする

1 POWERボタンを押す

- その日の記録枚数が表示され、電源がオフになります。
- 日時設定をしていない場合は、記録枚数は［0］と表示されます。
- 日時設定を変更した場合は、設定変更後の記録枚数のみ表示されます。

オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押さなかった場合は、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.177）

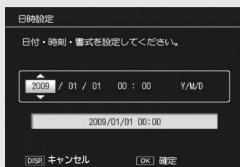
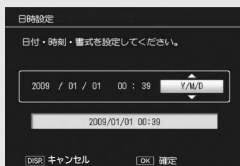
画像モニター節電モードについて

セットアップメニューで［画像モニター節電］を［ON］に設定する（☞P.178）と、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターが暗くなります。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、年・月・日・時・分・書式を設定する

- ▲▼で設定を変更し、◀▶で項目を移動します。
- DISP.ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

出荷時の設定

2 画面の表示を確認し、ADJ./OKボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを押す

- 日時が設定されます。

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。（☞P.188）
- 日時を入れて撮影することができます。（☞P.118）

かんたんな撮影

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

2 シャッターボタンに指を当てる

注意

- 指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。
- レンズユニットを手で持たないように注意してください。ズーム、ピント合わせが正常に動作しません。

手ブレを防ぐには

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画を鮮明に撮影できません（手ブレ）。
次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

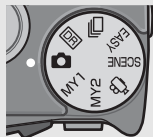
- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る
- 長時間露光を設定して撮る（☞P.111）

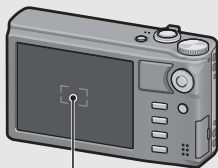
画像モニターに手ブレマークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

- 手ブレ補正機能を使う（☞P.116）
- フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.42）
- ISO感度を上げる（☞P.123）
- セルフタイマーを使う（☞P.44）

オート撮影モードで撮る

モードダイヤルを📷に合わせて、オート撮影モードで撮影してみましょう。
シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。
被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷に合わせる

2 画像モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出とホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、画像モニター中央部に赤い枠が表示されます。
- 最大9点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

ピント合わせについて --

ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色で確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色
ピント合わせ前	白
ピントが合ったとき	緑
ピントが合わなかったとき	赤（点滅）

次のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。

- 横線だけで、凹凸のないもの
- 動きの速いもの
- 暗いところのもの
- 強い逆光および反射光があるもの
- 蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離の違う被写体にピントを固定するなどしてから撮影してください。

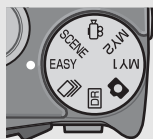
メモ --

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンは静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。（☞P.116）
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。

イージー撮影モードで撮る

モードダイヤルをEASYに合わせると、設定変更が可能な撮影機能が限られ、複雑な設定をすることなく簡単な操作で撮影できます。
初心者の方でも誤操作の心配が少なく、安心して撮影できます。家族とカメラを共有する場合や、旅先で他の人に撮影してもらう場合などにも便利です。

1 モードダイヤルをEASYに合わせる

2 シャッターボタンを押して撮影する

メモ

- 撮影設定メニューは、[画質・サイズ] のみ設定できます。操作方法は、P.97を参照してください。その他の撮影設定メニュー項目は初期設定値（☞P.226）に固定されます。ただし、[ISO感度] はフラッシュモードに応じて [AUTO] または [AUTO-HI] に固定されます。
- 撮影モードでモードダイヤルを EASY に合わせている場合、セットアップメニューは、他の撮影モード時とは項目数、表示順が異なります。各設定内容は、他の撮影モード時と同じです。
- 他の撮影モードでフラッシュ、マクロ、セルフタイマーの設定を変更しても、イージー撮影モードに切り替えると、初期設定値に戻ります。
- 近距離の被写体を撮影する場合は、自動的にマクロモードに切り替わります。マクロモードでズームを使用しているときの、最短撮影距離と撮影範囲は以下のとおりです。

ズーム位置	焦点距離(*)	最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
広角時	28mm	約3cm	約49×37mm
望遠時	200mm	約25cm	約62×47mm（デジタルズーム未使用時）
	960mm	約25cm	約12.9×9.7mm（デジタルズーム4.8倍時）

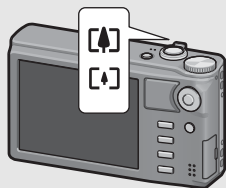
(*) 35mm判カメラ換算値です。

ズームを使って撮る

ズームレバーを[♠]（望遠）側に回すと、被写体を大きく写すことができます。
ズームレバーを[♠]（広角）側に回すと、広い範囲を写すことができます。

1 撮影できる状態で、ズームレバーを[♠]側や[♠]側に回す

- 画像モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。
- ズームには高速ズームと低速ズームがあります。ズームレバーを[♠]側に少し回すと、低速でズームが動作します。さらに回すと、高速でズームが動作します。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

デジタルズームを使う

デジタルズームを行うと、通常の拡大倍率（最大7.1倍）より、さらに被写体を拡大できます（静止画：最大4.8倍、動画：最大4.0倍まで）。

デジタルズームを使う場合は、ズームバー表示が[♠]側の端まできたらいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを[♠]側に回し続けます。

［画質・サイズ］を3456×2592に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます。（☞P.179）

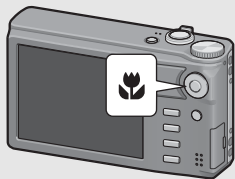
メモ

- ズームの焦点距離を7段階に固定することができます。（☞P.167）
- ダイナミックレンジダブルショット、マルチターゲットAFでは、デジタルズームは使用できません。

接写で撮る（マクロ撮影）

マクロ撮影機能を使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます。
最短約1cm（レンズ先端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 ADJ./OK ボタンを（マクロ）側に押す

- 画像モニター中央に一瞬 が大きく表示され消えた後、上部にが表示されます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- マクロモードを解除するには、ADJ./OK ボタンをもう一度側に押します。

メモ

- ズーム位置が広角端（焦点距離28mm＊）の状態でマクロモードにすると、ズーム位置は自動的に32mm＊に固定されます。（＊35mm判カメラ換算値です。）
- ズームを使用しているときの最短撮影距離と撮影範囲は以下のとおりです。

ズーム位置	焦点距離（＊）	最短撮影距離（レンズ先端より）	撮影範囲
広角時	32mm	約1cm	約27×21mm
望遠時	200mm	約25cm	約62×47mm（デジタルズーム未使用時）
	960mm	約25cm	約12.9×9.7mm（デジタルズーム4.8倍時）

（＊）35mm判カメラ換算値です。

- マクロ撮影時は、ズームの位置によって最短撮影距離が変わりますが、[最短撮影距離表示] を [表示] に設定すると、最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。(☞P.183)
- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの [ズームマクロ] を使います。(☞P.74)
- マクロモードでは、[フォーカス] (☞P.99) が [マルチAF] / [スナップ] / [∞] に設定されている場合でも、[スポットAF] として動作します。(イージー撮影モード時はのぞく)
- シーンモードでのマクロ撮影は、以下のとおりです。

シーンモード	マクロ撮影
ポートレート	不可
フェイス	不可
スポーツ	不可
夜景ポートレート	不可
遠景	不可
夜景	不可
高感度	使用可
ズームマクロ	常時マクロ撮影
斜め補正	使用可
文字	使用可

フラッシュを使って撮る

撮影する状況によって、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時には、[AUTO] に設定されています。

フラッシュの光が届く範囲

※ISO感度(☞P.123)が [AUTO] または [ISO 400] の場合

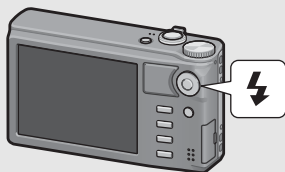
広角時	約20cm〜3.0m(レンズ先端より)
望遠時	約25cm〜2.0m(レンズ先端より)

フラッシュモードの種類

アイコン	モード	説明
(発光禁止マーク)	発光禁止	フラッシュを発光しません。
AUTO	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
(赤目軽減マーク)	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
(強制発光マーク)	強制発光 (*)	フラッシュを必ず発光します。
SLOW	スローシンクロ(*)	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

(*) イージー撮影モードのときは、選択できません。

1 ADJ./OKボタンを⚡(フラッシュ)側に押す

- 画像モニターにフラッシュモード一覧が表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、フラッシュモードを選ぶ

- 画像モニター左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、画像モニター左上のフラッシュモードのマークが点滅します。充電が完了するとマークが点灯し、撮影が可能になります。

- ADJ./OKボタンを⚡（フラッシュ）側に押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、マルチターゲットAF、ダイナミックレンジダブルショット、ブラケット撮影では、発光禁止になります。
- フラッシュの光量は、調整することができます。（☞P.106）
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- シーンモードでのフラッシュ撮影は、以下のとおりです。

シーンモード	フラッシュ
ポートレート	初期値：[発光禁止]
フェイス	初期値：[発光禁止]
スポーツ	初期値：[発光禁止]
夜景ポートレート	[赤目軽減]、[スローシンクロ] のみ選択可 初期値：[スローシンクロ]
遠景	[発光禁止] に固定
夜景	[発光禁止]、[AUTO]、[スローシンクロ] のみ選択可 初期値：[AUTO]
高感度	初期値：[発光禁止]
ズームマクロ	初期値：[発光禁止]
斜め補正	初期値：[発光禁止]
文字	初期値：[発光禁止]

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒、2秒、[カスタムセルフ] から選択できます。[カスタムセルフ] に設定すると、間隔をあけて複数枚撮影することができます。[カスタムセルフ] の撮影間隔と撮影枚数は、撮影設定メニューの [カスタムセルフ] で設定しておきます。(☞P.112)

1 撮影できる状態で、 (セルフタイマー) ボタンを押す

- 画像モニターにセルフタイマーモード一覧が表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを▲▼側に押して、モードを選ぶ

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある [10] は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。

3 シャッターボタンを押す

- 10秒の場合は、セルフタイマーランプが8秒間点灯し、最後に2秒間点滅して撮影されます。
- [カスタムセルフ] の場合は、セルフタイマーランプが撮影の直前に毎回2秒間点滅し、設定した撮影間隔で撮影されます。フォーカスの位置は、1回目の撮影で固定されます。
- [カスタムセルフ] の場合、撮影を途中で中止したいときはMENUボタンを押してください。

メモ

- 撮影が完了した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、ボタンを押して、[セルフ オフ] に切り替えます。
- 2秒の場合、セルフタイマーランプは点灯、点滅しません。
- イージー撮影モードでは、10秒のみ選択できます。
- セルフタイマーを設定すると、[インターバル撮影] の設定は無効になります。
- [フォーカス] を [マルチターゲットAF] に設定している場合、[カスタムセルフ] は設定できません。
- [カスタムセルフ] を設定している状態で、[フォーカス] を [マルチターゲットAF] に設定すると、カスタムセルフは解除され、セルフタイマーはオフになります。

再生する

静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

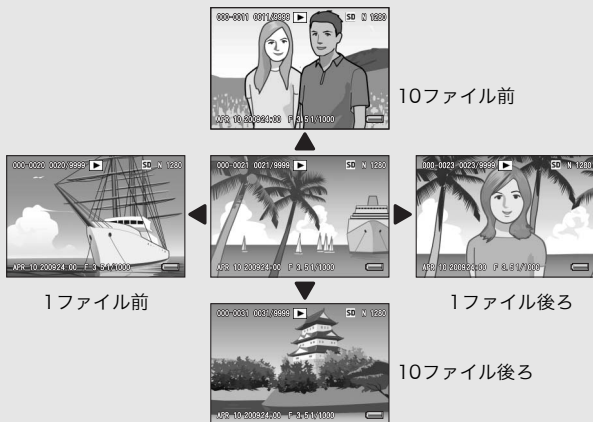
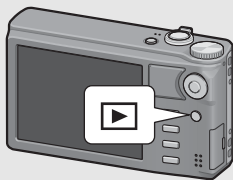
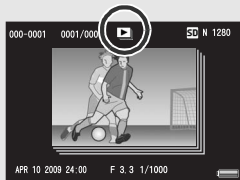
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮ったファイルが表示されます。
- ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押すと、以下の順番でファイルが表示されます。

10ファイル前

1ファイル前

1ファイル後ろ

10ファイル後ろ

- ▶ マークが表示されているファイルは、M連写プラス／超高速連写／マルチターゲットAFで撮影した画像です。再生の方法は、P.127を参照してください。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度▶ボタンを押します。

メモ

頻繁に再生したいファイルを、再生設定メニューの［画像クリップ〔設定〕］で登録しておくと、再生時にすぐに表示することができます。（☞P.134）

撮影モードでの画像確認について

撮影モードでは、静止画を撮影した直後に、確認のために撮影した画像が表示されます。確認時間はセットアップメニューの［画像確認時間］で変更することができます（☞P.176）。
［画像確認時間］を［HOLD］に設定すると、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けます。［HOLD］に設定している場合は、確認中の画像を拡大表示したり削除したりすることもできます。（☞P.49、51）

再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態で▶（再生）ボタンを長押しすると、電源がオンになり、再生モードの状態で起動します。
▶ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度▶ボタンを押すと、撮影モードになります。

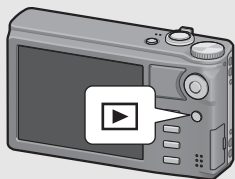
再生元について

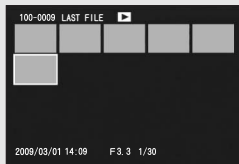
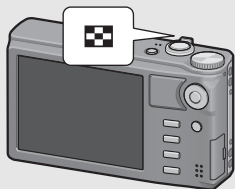
SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードから再生されます。

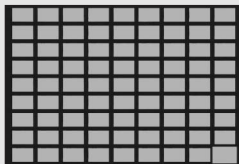
一覧表示する

再生画面は、20枚または81枚ずつ一覧表示することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ズームレバーを再度▦側に回す

- 画面が81分割されて、ファイルが一覧表示されます。

1枚表示するには

1 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、ファイルを選ぶ

2 ADJ./OKボタンを押すか、ズームレバーを🔍（拡大表示）側に1回または2回まわす

拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
640×480	3.4倍
1280×960	6.7倍
上記以外の画像サイズ	16倍

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、拡大表示したい静止画を表示する

3 ズームレバーを🔍（拡大表示）側に回す

- 静止画が拡大されます。
- 拡大表示中にADJ./OKボタンを押すと、以下のように拡大倍率を変更します。

[画質・サイズ] がN2048（3M）以上の場合：

8倍未満の拡大表示中は、8倍に拡大します。8倍以上の拡大表示中は、16倍に拡大します。

[画質・サイズ] がN1280（1M）以下の場合：

最大倍率に拡大します。

- 拡大表示中に DISP. ボタンを押すと、以下のように画面を切り替えることができます。

この画面でADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、表示個所を移動します。

この画面でADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、表示個所を移動します。

この画面でADJ./OK ボタンを◀▶側に押すと、拡大表示した状態で、前の画像／次の画像を表示します。MPファイルまたは動画を表示すると、等倍に戻ります。

4 元の大きさに戻したい場合は、ズームレバーを ⊞（サムネイル表示）側に回す

メモ---

- セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.176）、撮影後の確認画面で画像を拡大表示することもできます。
- 動画を拡大表示することはできません。
- MPファイルの拡大表示方法は、P.127～128を参照してください。

削除する

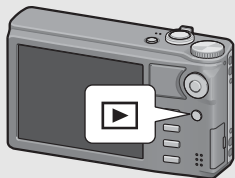
不要なファイルや撮影に失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーから削除することができます。

メモ

- 誤って必要なファイルを削除してしまった場合は、[ファイル復元]機能を使うと、削除したファイルを元に戻すことができます。(☞P.156)
- セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.176）、撮影後の確認画面で画像を削除することもできます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

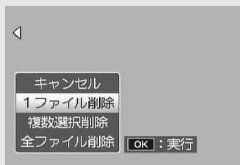
2 ADJ./OK ボタンを▲▼◀▶側に押して、削除したいファイルを表示する

- 複数ファイルを削除したい場合は、ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回し、一覧表示にしてから手順3に進んでも構いません。

3 🗑（削除）ボタンを押す

1ファイルを削除する場合

4 ADJ./OK ボタンを▲▼側に押して、[1ファイル削除] を選ぶ

- ◀▶側に押すと、削除するファイルを変更できます。

5 ADJ./OKボタンを押す

複数ファイルを個別に指定する場合

4 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[複数選択削除] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.51の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順4の操作は不要です。

5 ▲▼側に押して、[1枚ずつ指定] を選び、ADJ./OKボタンを押す

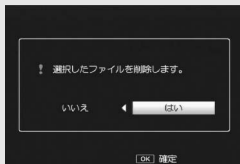
6 ▲▼◀▶側に押して、削除したいファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- MENUボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。P.53の手順6以降を参照してください。

7 手順6を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択してADJ./OKボタンを再度押すと解除できます。

8 🗑（削除）ボタンを押す

9 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、[はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

複数ファイルの範囲を指定する場合

4 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[複数選択削除] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.51の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順4の操作は不要です。

5 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、[範囲を指定] を選び、ADJ./OKボタンを押す

6 ▲▼◀▶側に押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP.ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。
- MENUボタンを押すと、1ファイルずつ指定する画面に切り替わります。P.52の手順6以降を参照してください。

7 ▲▼◀▶側に押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

8 手順6、7を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

9 🗑（削除）ボタンを押す

10 ADJ./OK ボタンを ◀▶ 側に押して、[はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

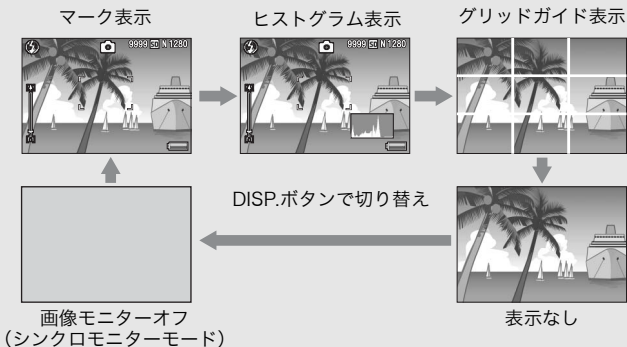
全ファイルを削除する場合

4 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[全ファイル削除]を選び、ADJ./OKボタンを押す

5 ◀▶側に押して、[はい]を選び、ADJ./OKボタンを押す

DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

● 撮影モード時

グリッドガイド表示

画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

シンクロモニターモード

カメラ操作時以外は、画像モニターをオフにする機能です。節電に効果があります。シャッターボタンを半押しすると、画像モニターがオンになり、押し切ったあとに確認画面が表示されて、画像モニターがオフになります。
(セットアップメニューの［画像モニター節電］とは異なります。)

メモ

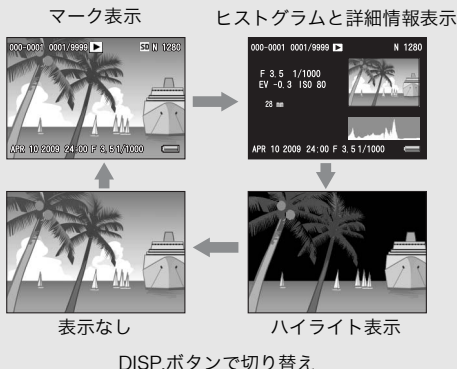
- セットアップメニューで［撮影情報表示フレーム］を［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示のときに、撮影情報フレームを表示することができます。(☞P.182)
- イージー撮影モード時は、DISP.ボタンで画面の表示を切り替えることはできません。
- 動画モード時は、ヒストグラム表示はできません。

- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定している場合は（☞P.181）、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます。（☞P.57）
- 画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ・ADJ./OKボタン、MENUボタン、DISP.ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合
  - ・ズームレバーを回した場合
  - ・マニュアルフォーカス中（☞P.101）にADJ./OKボタンを▲▼側に押した場合

●再生モード時

マーク表示　　ヒストグラムと詳細情報表示

表示なし　　ハイライト表示

DISP.ボタンで切り替え

ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。構図を変える、露出を－側に補正する（☞P.119）などして、撮り直すことをお勧めします。

メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

電子水準器について

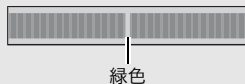
セットアップメニューまたはDISP.ボタンの長押しで［水準器設定］をオンにすると（☞P.181）、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認することができます。水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。
風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図等で特に有効です。
［水準器設定］の設定方法は、P.181を参照してください。

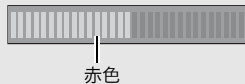
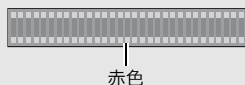
●［水準器設定］を［表示のみ］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。

●［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。カメラが水平のときは、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

●［水準器設定］を［音のみ］に設定している場合：
カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。水平インジケーターは表示されません。

水平インジケーターの表示

水平の場合：
　水平インジケーターが緑色になり、目盛りが真中を指します。

左右に傾いている場合：
　水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

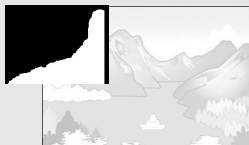
左右に傾けすぎている場合：
　カメラの傾きと反対側の半分が赤色になります。目盛りは表示されません。

カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合：
　水平インジケーターの上下が赤くなります。目盛りは表示されません。

カメラを縦にしている場合：
　カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます。

注意

- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフのときは（☞P.55）、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。[水準器設定] を [表示＋音] に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- [水準器設定] を [表示＋音] または [音のみ] に設定していても、[操作音音量設定] を [□ □ □]（なし）に設定している場合（☞P.181）は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、画像モニターの右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。
ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムの山が右側だけ盛り上がっている場合は、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

グラフの山が左側だけ盛り上がっている場合は、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ--

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを調整しながら画像の明度、コントラストを補正することができます。（☞P.141）
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.119を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

1　ADJ.ボタンの機能

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

ADJ./OKボタンには、以下の機能があります。それぞれの操作方法は、各参照先をご覧ください。

① 撮影設定メニューのうち、4つの機能を登録する（☞P.62）
② AE/AFターゲットを移動する（☞P.64）

撮影設定メニューの登録

ADJ./OKボタンには、撮影設定メニューのうち4つの機能を登録することができます。5つ目の機能は、AE/AFターゲット移動（☞P.64）に固定されており、変更することはできません。
ADJ./OKボタンを使うと、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。

1 ADJ./OKボタンに登録したい機能を、セットアップメニューの［ADJ.ボタン設定1/2/3/4］で設定する

- 購入時には4つの機能が登録されていますが、機能を変更することができます。操作方法はP.170を参照してください。

2 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

- ADJ.モード画面が表示されます。

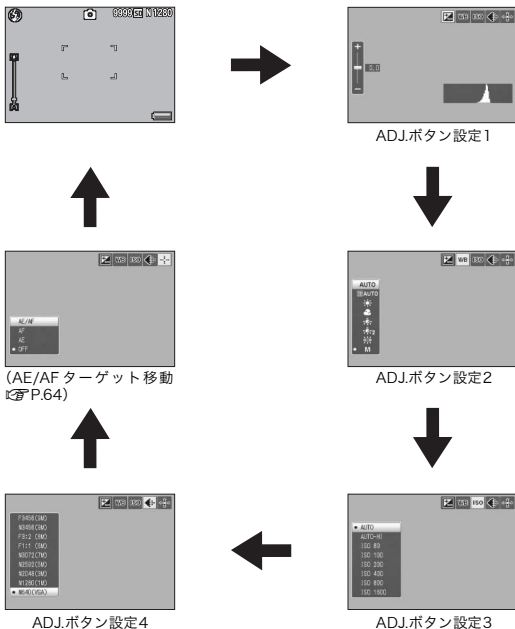
3 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、セットアップメニューで［ADJ.ボタン設定1］～［ADJ.ボタン設定4］に［露出補正］、［ホワイトバランス］、［ISO］、［画質］の機能を登録した場合の画面例です。
- 5つ目のアイコン（AE/AFターゲット移動）は固定されており、セットアップメニューで変更することはできません。

ADJ.ボタン設定1

ADJ.ボタン設定2

ADJ.ボタン設定3

ADJ.ボタン設定4

（AE/AF ターゲット移動 ☞P.64）

4 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、設定を選択する

5 ADJ./OKボタンを押して確定する

メモ---

ADJ./OKボタンに登録できる機能と登録の方法は、P.170を参照してください。

AE／AFターゲット移動

撮影時にカメラを動かすことなく、ADJ./OKボタンでAE（自動露出）とAF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。三脚を使った撮影時などに便利です。

設定	内容
AE/AF	AEとAFはそれぞれスポットAE、スポットAFとなり、ターゲットを同時に移動できます。(スポットAEとスポットAFのターゲットは同じ位置になります。)
AF	AFがスポットAFとなり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの[測光]で選択した設定になります(☞P.103)。
AE	AEがスポットAEとなり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの［フォーカス］で選択した設定になります（☞P.99）。

1 モードダイヤルを📷／DR／▭に合わせる

2 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

3 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、✥を選択する

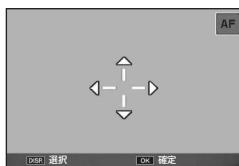
4 ▲▼側に押して設定を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

5 ▲▼◀▶側に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

- DISP.ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

1 ADJ.モードの機能

7 シャッターボタンを半押しする

- ［AE/AF］を選択している場合は、スポットAEとスポットAFの位置が表示されます。
- ［AF］を選択している場合は、スポットAFの位置が表示されます。
- ［AE］を選択している場合は、スポットAEの位置とピント合わせの枠が表示されます。

8 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ--

- シーンモードと動画モードでは、ADJ./OKボタンを押して を選択すると、マクロターゲットを移動できます。 選択後の操作手順は、P.68の手順3以降を参照してください。
- Fnボタンでマクロターゲット移動機能を実行し（☞P.68）、その後解除していない場合は、ADJ./OK ボタンを押しても は表示されません。
- ［フォーカス］を［マルチターゲット AF］または［MF］に設定している場合は、AE/AFターゲット移動機能は使用できません。（☞P.101）
- ターゲットを移動した後に、以下の操作を行うと、移動したターゲットの位置は中央に戻ります。
  - ・［AE］、［AF］、［AE/AF］の設定を変更する
  - ・［フォーカス］を［マルチターゲットAF］または［MF］に設定する

2 Fn（ファンクション）ボタンの使い方

セットアップメニューの［Fnボタン設定］で機能を登録すると（☞P.168)、Fn（ファンクション）ボタンを押すだけで色々な機能を切り替えることができます。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。それぞれの操作方法は各参照先をご覧ください。

設定	内容	参照先
逆光補正	逆光補正機能のオン／オフを切り替える	P.67
マクロターゲット	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.68
AEロック	露出を固定する	P.69
AF/マルチターゲットAF	オートフォーカス(*)とマルチターゲットAFを切り替える	P.70
AF/MF	オートフォーカス（*）とマニュアルフォーカスを切り替える	P.71
AF/スナップ	オートフォーカス（*）とスナップを切り替える	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

(*)［マルチAF］または［スポットAF］

メモ

- 撮影モード別の設定可能項目は、P.169を参照してください。
- 画像を再生しているときに Fn ボタンを押すと、［画像クリップ〔設定〕］で登録した画像が表示されます。操作方法は、P.134～136を参照してください。
- 再生設定メニューの［トリミング］、［レベル補正］（［MANUAL］選択時）、［ホワイトバランス補正］を選択してFnボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。（☞P.139、142、144）

逆光補正機能（イージー撮影モード）

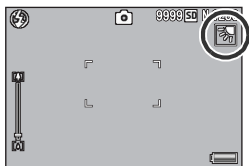
明るい背景をバックにして人物を撮影するときなど、主要被写体が暗くなってしまう場合は逆光補正機能を使用します。
イージー撮影モードでFn（ファンクション）ボタンに［逆光補正］を登録する（☞P.168）と、撮影時にFnボタンを押して、逆光補正機能のオン／オフを切り替えることができます。

1 モードダイヤルをEASYに合わせる

2 セットアップメニューで［Fn ボタン設定］を［逆光補正］に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- 逆光補正機能がオンになり、画面にマークが表示されます。
- もう一度Fnボタンを押すと、逆光補正機能がオフになります。

メモ

- ［逆光補正］は、イージー撮影モードのときのみ設定できます。
- マクロ撮影時は、［逆光補正］は使用できません。

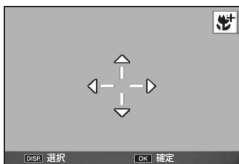
マクロターゲット移動

カメラを動かすことなくAFターゲットを移動してマクロ撮影ができます。マクロターゲットを移動した位置でフォーカスロック(☞P.35)を行い、撮影ができるので、三脚使用時などに便利です。

1 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［マクロターゲット］に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn（ファンクション）ボタンを押す

- マクロターゲット移動画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

4 ADJ./OKボタンを押す

- DISP.ボタンを押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

5 シャッターボタンを半押しする

- 十字の位置にピント合わせが行われます。

6 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- ADJ./OKボタンを🌷（マクロ）側に押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

メモ--

ADJ./OKボタンでAE/AFターゲット移動機能を実行し（☞P.64）、その後解除していない場合は、Fn ボタンを押しても本機能は使用できません。

露出の固定

Fn(ファンクション)ボタンに[AEロック]を登録する(☞P.168)と、撮影時にFnボタンを押して、露出の固定（AEロック)、解除を切り替えることができます。

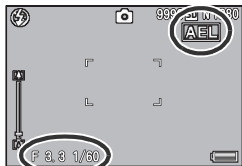
1 モードダイヤルを📷／SCENE／⧉／DRに合わせる

2 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［AEロック］に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

3 撮影できる状態にする

4 画像モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fnボタンを押す

- 露出が固定され、画面にAELマーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
- もう一度Fnボタンを押すと、AEロックが解除されます。

メモ

［長時間露光］を［OFF］以外に設定している場合、AEロック機能は使用できません。

AF/マルチターゲットAF

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/マルチターゲットAF］を登録する（☞P.168）と、撮影時にFnボタンを押して、オートフォーカスとマルチターゲットAFを切り替えることができます。
Fnボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定（☞P.99）によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fnボタンを押す
マルチAF	マルチターゲットAF→マルチAF→マルチターゲットAF･･･
スポットAF	マルチターゲットAF→スポットAF→マルチターゲットAF･･･
マルチターゲットAF	(マルチAF／スポットAF) *→マルチターゲットAF→（マルチAF／スポットAF）*･･･

* 最後に設定したAFモードに切り替わります。

1 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［AF/マルチターゲットAF］に設定する

- 操作方法はP.171を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- ［マルチターゲット AF］に切り替わると、画面にマークが表示されます。

注意

［フォーカス］の設定が［スナップ］／［MF］／［∞］の場合（☞P.99)、Fnボタンを押してもAF/マルチターゲットAFを切り替えることはできません。

メモ

- マルチターゲットAFの操作方法は、P.100を参照してください。
- ［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。(☞P.99)

AF/MF

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/MF］を登録する（☞P.168）と、撮影時にFnボタンを押して、オートフォーカス（AF）とマニュアルフォーカス（MF）を切り替えることができます。Fnボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定（☞P.99）によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fnボタンを押す
マルチAF	MF→マルチAF→MF・・・
スポットAF	MF→スポットAF→MF・・・
MF	（マルチAF／スポットAF）＊→MF→（マルチAF／スポットAF）＊・・・

＊ 最後に設定したAFモードに切り替わります。

1 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［AF/MF］に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- ［MF］に切り替わると、画面右上に［MF］マークが表示されます。

注意

［フォーカス］の設定が［マルチターゲットAF］／［スナップ］／［∞］の場合（☞P.99）、Fnボタンを押してもAF/MFを切り替えることはできません。

メモ

- マニュアルフォーカスの操作方法は、P.101を参照してください。
- ［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.99）

フォーカスロックした位置でピントを固定するには -----------

Fnボタンを押してAF/MFを切り替え、フォーカスロックした位置でピントを固定する（AFロック）ことができます。操作手順は以下のとおりです。

1（オートフォーカスの状態で）シャッターボタンを半押しし、被写体にピントを合わせます。（フォーカスロック）

2 シャッターボタンから指を離し、Fnボタンを押します。

- MFに設定され、フォーカスロックをした位置で撮影距離が固定されます。
- AFに戻すには、再度Fnボタンを押してください。

AF/スナップ

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/スナップ］を登録する（☞P.168）と、撮影時にFnボタンを押して、オートフォーカス（AF）とスナップを切り替えることができます。Fnボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定（☞P.99）によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fnボタンを押す
マルチAF	スナップ→マルチAF→スナップ･･･
スポットAF	スナップ→スポットAF→スナップ･･･
スナップ	（マルチAF／スポットAF）*→スナップ→（マルチAF／スポットAF）*･･･

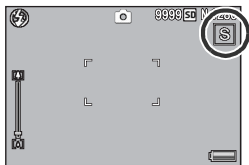
* 最後に設定したAFモードに切り替わります。

1 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を［AF/スナップ］に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- ［スナップ］に切り替わると、画面右上にマークが表示されます。

注意

［フォーカス］の設定が［マルチターゲットAF］／［MF］／［∞］の場合（☞P.99）、Fnボタンを押してもAF/スナップを切り替えることはできません。

メモ

［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.99）

いろいろな機能のオン／オフ

Fnボタンに以下のいずれかを登録して（☞P.168）Fnボタンを押すと、それぞれの機能のオン／オフを切り替えることができます。

ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT、最小絞り

1 モードダイヤルを📷／SCENE／連写／DRに合わせる

2 セットアップメニューで［Fnボタン設定］を上記いずれかの項目に設定する

- 操作方法はP.168を参照してください。

3 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- それぞれの機能のオン／オフが切り替わります。

メモ

それぞれの機能は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.93）

シーンモード（SCENE）

シーンモードを使うと、10種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

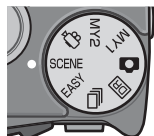
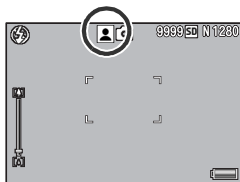
シーンモードの種類

ポートレート	人物を撮るときに使います。
フェイス	被写体の顔を自動的に認識し、ピント、露出、ホワイトバランスを調整します。 詳しい操作手順はP.77で説明しています。
スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
夜景ポートレート	夜景を背景にして人物を撮るときに使います。 フラッシュは自動的に発光します。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意して撮影してください。
遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
夜景	夜景を撮るときに使います。 夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。 • フラッシュ設定が［AUTO］のとき • 周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき • 近い距離に人物などの被写体があるとき
高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。画像モニターも見やすくなります。
ズームマクロ	ズーム位置を自動的に最適化し、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。 光学ズームは使用できません。 詳しい操作手順はP.79で説明しています。

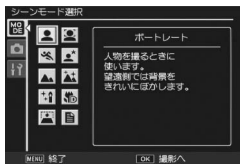
 斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順はP.78で説明しています。 斜め補正モードでは、[画質・サイズ]は、[N1280]、[N640]から選択できます。(☞P.97)
 文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。(☞P.80) 画像サイズは、3456×2592、2048×1536から選択できます。(☞P.97)

メモ

シーンモード時の撮影設定メニューについては、P.95を参照してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 シーンモードを変更したい場合は、MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、シーンモードを選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

シーンモードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には

撮影モードでMENUボタンを押し、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して［MODE］タブを選択してください。その後ADJ./OKボタンを▼側に1回押すと撮影設定メニュー、2回押すとセットアップメニューが表示されます。各項目の設定方法は、P.96、P.160を参照してください。

フェイスモードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、[フェイス] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 構図を決める

- 顔を認識すると、認識した大きさの枠が青で表示されます。
- 最大4枠まで表示されます。

6 シャッターボタンを半押しする

- 複数の顔がある場合でも最適になるようピント合わせが行われます。ピントが合うと、顔認識中の枠が緑で表示されます。ピントが合わないと、顔認識中の枠が消えます。
- 露出とホワイトバランスが固定されます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押し切る

注意 --

以下のような場合は顔認識できないことがあります。

- 横顔、傾けている顔、動いている顔の場合
- カメラを傾けたり、逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合
- 顔の一部が隠れている場合
- 周囲が暗く、顔がよく見えない場合
- 被写体から遠すぎる場合（グリッドガイド表示 ☞P.55 にしたときに、画像モニターに写る顔の高さが、グリッドガイド1マスの高さ以上になるようにしてください）
- 顔が画像モニターの端にある場合

斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、[斜め補正] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OKボタンを▶側に押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OKボタンを▲側に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意--

［斜め補正］に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体ができるだけ大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ・ピンぼけの画像
  - ・被写体の4辺がはっきり見えない
  - ・被写体と背景の区別がつきにくい
  - ・背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。
- ［日付入れ撮影］をオンに設定していると、補正エリアを正しく検出できない場合があります。

メモ--

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。（☞P.146）

3

撮影モードの種類

ズームマクロで撮影するには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、[ズームマクロ] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 ズームレバーを[♠](望遠)側や[♠](広角)側に押す

- 画像モニターに倍率が表示されます。

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押し切る

注意--

- ズーム位置が広角端 (焦点距離28mm*) の状態でズームマクロにすると、ズーム位置は自動的に58mm*に固定されます。(*35mm判カメラ換算値です。)
- ズームマクロを使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

焦点距離(*)	最短撮影距離 (レンズ先端より)	撮影範囲
58mm	約1cm	約22×17mm (デジタルズーム未使用時)
281mm	約1cm	約4.7×3.5mm (デジタルズーム4.8倍時)

(*) 35mm判カメラ換算値です。

- [画質・サイズ] を3456×2592に設定している場合は、[デジタルズーム切替] で [オートリサイズ] を選択すると、オートリサイズズームが有効になります。(☞P.179)

文字濃度を変えるには

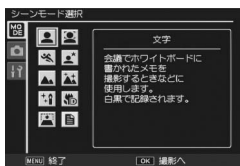
シーンモードの［文字］で撮影する場合、ADJ./OKボタンで文字の濃淡を変更することができます。
濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.96）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、［文字］を選び、ADJ./OKボタンを押す

4 ADJ./OKボタンを押す

- 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、濃度を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 文字濃度の設定は画面上には表示されません。

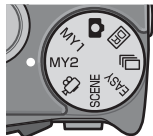
3 撮影モードの種類

マイセッティングモード（MY1／MY2）

モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2の設定は、セットアップメニューの［マイセッティング登録］で登録します。（☞P.165）

（☞P.165）

1 モードダイヤルをMY1/MY2に合わせる

- MY1に合わせると、［マイセッティング登録］の［MY1］の設定になります。
- MY2に合わせると、［マイセッティング登録］の［MY2］の設定になります。

2 シャッターボタンを押す

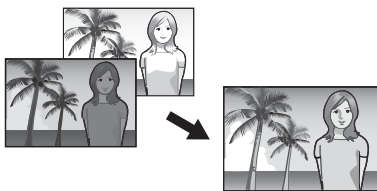
メモ

マイセッティングモード時でも、カメラの設定は変更することができます。設定変更後、モードを切り替えるか電源をオフにすると、もとのMY1、MY2の設定に戻ります。

ダイナミックレンジダブルショットモード（DR）

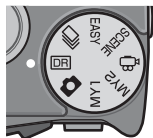
デジタルカメラの「ダイナミックレンジ」とは、カメラが処理できる輝度の範囲を指します。
明暗差の大きい日向と日陰を同時に撮影する場合などは、明るい部分が白とびしてしまい、撮影した画像が実際の印象と異なってしまう場合があります。これは、カメラが処理できる輝度の範囲が、人の目よりも狭いためです。
モードダイヤルをDRに合わせて撮影すると、明るい部分から暗い部分までなめらかに再現し、人の目で見た印象と近い画像が記録できます。

メモ

ダイナミックレンジダブルショットでは、露出を変化させて2枚の静止画を連続撮影し、それぞれの適正露出部分を合成します。他のモード時と比べて撮影時間が長くなるので、手ブレに注意してください。手ブレマークは常に表示されます。

連続撮影

合成して保存

1 モードダイヤルをDRに合わせる

2 シャッターボタンを押して撮影する

注意 --

- デジタルズームは無効となります。
- フラッシュは発光禁止になります。
- 撮影場所が明るすぎたり暗すぎたりする場合、ダイナミックレンジダブルショットの効果が出ない場合があります。
- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。
- [長時間露光]、[最小絞り固定]、[スローシャッター速度制限］の設定は無効となります。

ダイナミックレンジ拡大効果

ダイナミックレンジの拡大効果を、[微弱］～［強］の4種類から選択できます。拡大効果を強くするほど、カメラが処理できる輝度の範囲が広がります。

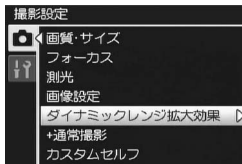
1 **モードダイヤルを DR に合わせる**

2 **撮影設定メニューを表示する**

- 操作手順は、P.96を参照してください。

3 **ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[ダイナミックレンジ拡大効果］を選び、▶側に押す**

4 **▲▼側に押して、設定を選び、ADJ./OKボタンを押す**

3
撮影モードの種類

通常撮影画像の付加

ダイナミックレンジを拡大した画像に加え、通常撮影での画像を付加し、合計2枚の画像を記録します。

ダイナミックレンジ拡大画像　　通常撮影での画像

1 モードダイヤルを DR に合わせる

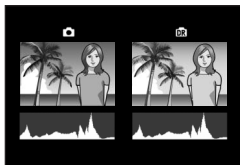
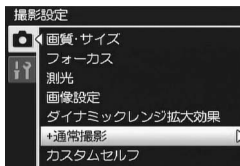
2 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[+通常撮影] を選び、▶側に押す

4 ▲▼ 側に押して [ON] を選び、ADJ./OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 通常画像とダイナミックレンジ拡大画像を並べた、確認画面が表示されます。

メモ

手順5の確認画面では、両画像のヒストグラムが表示されます。[画像確認時間] を [HOLD] に設定すると (☞P.176)、確認画面を保持してヒストグラムを確認できるので、画像を比較しやすくなります。

連写モード（□）

モードダイヤルを□に合わせると、いろいろな連続撮影ができます。

注意 ---

内蔵メモリ使用時は、記録完了までに時間がかかる場合があります。

メモ ---

- フラッシュは発光禁止になります。
- 連写モードでは、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを□に合わせると、手ブレ補正の表示が消えます。
- 連写モードでは、フォーカス、露出値、ホワイトバランスが固定されます。
- ［カード連続NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.186）、連写撮影中にファイル番号の下4桁が「9999」を超えると、SDメモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。

連写モードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定を変更したい場合には ---------------------

撮影モードでMENUボタンを押し、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して［MODE］タブを選択してください。その後ADJ./OKボタンを▼側に1回押すと撮影設定メニュー、2回押すとセットアップメニューが表示されます。各項目の設定方法は、P.96、P.160を参照してください。

通常連写

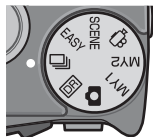
通常の連写撮影です。シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。

1 モードダイヤルを□に合わせる

2 MENUボタンを押す

- 連写モード選択画面が表示されます。

3

撮影モードの種類

3 **ADJ./OK ボタンを ▲▼ に押して、[連写] を選び、ADJ./OKボタンを押す**

- 画面にマークが表示されます。

4 **構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする**

- シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

5 **シャッターボタンを離して連写を終了する**

注意

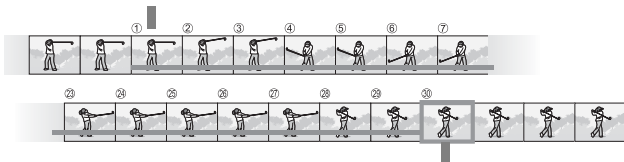
最大連続撮影可能枚数は、999枚です。残容量が1000枚以上ある場合でも、画像モニターには999と表示されます。

メモ

連続撮影可能枚数は、画像サイズにより異なります。(☞P.224)

M連写プラス

シャッターボタンを離す直前の約1秒間で30枚 (30コマ／秒)、または約2秒間で30枚（15コマ／秒）を連続撮影します。連続撮影した静止画を1組にして、1つのMPファイルとして記録します。

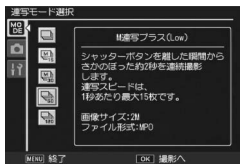
②約1秒間さかのぼって記録

①ここでシャッターを離すと･･･

1 **モードダイヤルを ⧉ に合わせる**

2 **MENUボタンを押す**

- 連写モード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、以下のどちらかを選ぶ

- [M連写プラス（Low)]：
  シャッターボタンを離す直前の約2秒間で、30枚を連続撮影します。
- [M連写プラス（High)]：
  シャッターボタンを離す直前の約1秒間で、30枚を連続撮影します。

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- カメラが被写体を記憶（メモリー）します。

6 シャッターボタンを離す

- 連写が終了し、直前の約1秒間または約2秒間の30枚を、1つのMPファイルとして記録します。
- 30 枚撮影終了前にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが、1つのMPファイルとして記録されます。

注意--

- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。

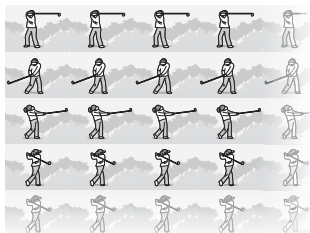
メモ--

画像サイズは、N1728(2M)に固定されます。

MPファイル --

MPファイルとは、複数の静止画を1つにしたファイル形式です。

超高速連写

シャッターボタンを押し切った瞬間から、約1秒間で120枚（120コマ／秒)、または約2秒間で120枚（60コマ／秒）を連続撮影します。連続撮影した静止画を1組にして、1つのMPファイルとして記録します。

1 モードダイヤルを☐に合わせる

2 MENUボタンを押す

- 連写モード選択画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、以下のどちらかを選ぶ

- [超高速連写（Low)]：
  約2秒間で120枚を連続撮影します。
- [超高速連写（High)]：
  約1秒間で120枚を連続撮影します。

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- 自動的に120枚連続して撮影されます。
- 120枚撮影終了前にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが、1つのMPファイルとして記録されます。

注意

- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。

メモ

画像サイズは、N640(VGA)に固定されます。

MPファイル

MPファイルとは、複数の静止画を1つにしたファイル形式です。

動画モード（）

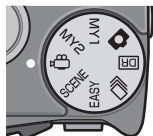
動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。
画像サイズは、640×480または320×240から選択できます。
また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレーム、15フレームのいずれかが選択できます。
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルをに合わせる

2 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

- 次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

3 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります（P.92）。また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルをに合わせると、の表示が消えます。
- 動きの速い被写体を撮影する場合、被写体がゆがんで記録される場合があります。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）が横帯として記録される場合があります。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます（最大4.0倍まで）。（☞P.39）
- 手順2でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズやフレーム数は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。（☞P.94）
- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。長時間撮影される場合は、充分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、充分に空き容量のある高速 SD メモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）を設定します。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

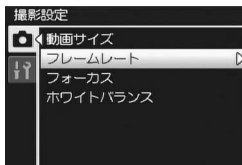
2 MENUボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［フレームレート］を選び、▶側に押す

4 ▲▼ 側に押して、［30 コマ／秒］または［15コマ／秒］を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、以下のとおりです。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
640×480（15コマ／秒）	1分42秒	18分20秒	37分17秒	76分41秒	149分40秒	299分50秒	601分28秒
640×480（30コマ／秒）	51秒	9分15秒	18分49秒	38分41秒	75分31秒	151分18秒	303分31秒
320×240（15コマ／秒）	4分19秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒	757分18秒	1519分7秒
320×240（30コマ／秒）	2分12秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	387分39秒	777分37秒

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENUボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	F3456(9M)、[N3456(9M)]、F3:2(8M)、F1:1(6M)、N3072(7M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.97
動画サイズ	[640]、320	P.97
フレームレート	[30コマ／秒]、15コマ／秒	P.91
文字濃度	濃い、[標準]、淡い	P.80
サイズ	[3456(9M)]、2048(3M)	P.97
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、マルチターゲットAF、MF、スナップ、∞	P.99
測光	[マルチ]、中央、スポット	P.103
画像設定	硬調、[普通]、軟調、カスタム設定、白黒、セピア	P.104
フラッシュ調光補正	+2.0 、+1.7 、+1.3 、+1.0 、+0.7 、+0.3 、[0.0] 、-0.3 、-0.7、-1.0、-1.3、-1.7、-2.0 （1/3EV 間隔）	P.106
オートブラケット	[OFF]、ON、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT	P.107
ダイナミックレンジ拡大効果	微弱、[弱]、中、強	P.82
＋通常撮影	[OFF]、ON	P.84
長時間露光	[OFF]、1秒、2秒、4秒、8秒	P.111
カスタムセルフ	撮影枚数（1～10 枚［2 枚]）、撮影間隔（5～10 秒［5 秒]）	P.112
最小絞り固定	[OFF]、ON	P.113
インターバル撮影	[0秒]、5秒～1時間	P.114
手ブレ補正	OFF、[ON]	P.116
スローシャッター速度制限	[OFF]、1/2秒、1/4秒、1/8秒	P.117
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.118

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
露出補正	+2.0 、+1.7 、+1.3 、+1.0 、+0.7 、+0.3 、［0.0］、-0.3 、-0.7、-1.0、-1.3、-1.7、-2.0（1/3EV 間隔）	P.119
ホワイトバランス	AUTO、［マルチパターンAUTO］、（屋外）、（曇天）、（白熱灯）、（白熱灯 2）、（蛍光灯）、（手動設定）	P.120
ISO感度	［AUTO］、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.123
撮影設定初期化	――――	P.125

撮影モード別設定可能項目 --------------------------------------

撮影モードによって、表示される項目が異なります。以下を参照してください。

シーンモード別の設定可能項目については、P.95を参照してください。

設定項目		SCENE	EASY		DR	
画質・サイズ	○	○	○	○	○	－
動画サイズ	－	－	－	－	－	○
フレームレート	－	－	－	－	－	○
フォーカス	○	○	－	○	○	○
文字濃度	－	○	－	－	－	－
サイズ	－	○	－	－	－	－
測光	○	○	－	○	○	－
画像設定	○	○	－	○	○	－
フラッシュ調光補正	○	○	－	－	－	－
オートブラケット	○	○	－	－	－	－
ダイナミックレンジ拡大効果	－	－	－	－	○	－
＋通常撮影	－	－	－	－	○	－
長時間露光	○	○	－	－	－	－
カスタムセルフ	○	○	－	－	○	－
最小絞り固定	○	○	－	○	－	－
インターバル撮影	○	－	－	－	○	－
手ブレ補正	○	○	－	－	○	－
スローシャッター速度制限	○	○	－	○	－	－
日付入れ撮影	○	○	－	○	○	－
露出補正	○	○	－	○	○	－
ホワイトバランス	○	○	－	○	○	○
ISO感度	○	○	－	○	－	－
撮影設定初期化	○	－	－	－	－	－

モードダイヤルがSCENEとき

モードダイヤルがSCENEのときは、シーンモードの種類によって表示される項目が異なります。以下を参照してください。

設定項目	ポートレート	フェイス	スポーツ	夜景ポートレート	遠景	夜景	高感度	ズームマクロ	斜め補正	文字	参照先
画質・サイズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	P.97
文字濃度	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	P.80
サイズ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	P.97
フォーカス	○	−	○	○	−	○	○	○	○	−	P.99
測光	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−	P.103
画像設定	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−	P.104
フラッシュ調光補正	○	○	○	−	−	○	○	○	○	−	P.106
オートブラケット	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−	P.107
長時間露光	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−	P.111
カスタムセルフ	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	P.112
最小絞り固定	−	−	−	−	−	−	−	○	○	−	P.113
インターバル撮影	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	P.114
手ブレ補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.116
スローシャッター速度制限	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.117
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P.118
露出補正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	P.119
ホワイトバランス	○	−	○	○	○	○	○	○	○	−	P.120
ISO感度	−	○	−	−	−	−	−	○	−	−	P.123
撮影設定初期化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	P.125

○ 設定可能　　− 設定不可

メモ

撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（☞P.159）

メニューの操作方法

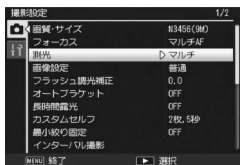
本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順5）は「ADJ./OKボタンを押す」と説明していますが、ADJ./OKボタンを◀側に押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードまたは連写モードの場合は、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押し、［MODE］タブを選択します。その後▼側に1回押すと、撮影設定メニューが表示されます。

表示している画面の範囲を示しています。

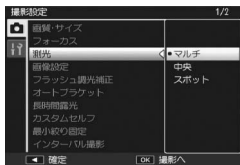
2 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面で DISP. ボタンを押すと、撮影設定メニュータブにカーソルが移動します。
- 一番下の項目で ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押すと、次の設定画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、選択肢を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消えて撮影できる状態になります。
- 手順5でADJ./OKボタンを◀側に押すと、設定が確定して手順2の画面に戻ります。

画質モード／画像サイズ

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
3456×2592	F(Fine) N(Normal)	F3456(9M) N3456(9M)	• 大きくプリントする • パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
3456×2304	F(Fine)	F3 : 2(8M)	
2592×2592	F(Fine)	F1 : 1(6M)	
3072×2304	N(Normal)	N3072(7M)	
2592×1944	N(Normal)	N2592(5M)	• プリントする
2048×1536	N(Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N(Normal)	N1280(1M)	• 枚数を多く撮る
640×480	N(Normal)	N640(VGA)	• 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、1280 × 960、640 × 480から選択できます。
- シーンモードの［文字］の場合は、3456×2592、2048×1536から選択できます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。（☞P.91）

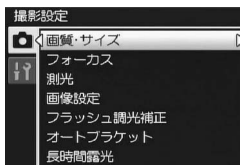
4 撮影設定メニュー

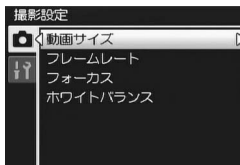
メモ--

- 画質モードは圧縮率によりNormalモード（N）とFineモード（F）があります。
  Normalモード：画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。
  Fineモード：　画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。
- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ] によって異なります。（☞P.224）

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 [画質・サイズ] が選ばれていることを確認し、ADJ./OKボタンを▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

静止画の場合

動画の場合

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に設定が表示されます。

ピント合わせの方式

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。
ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の6種類があります。

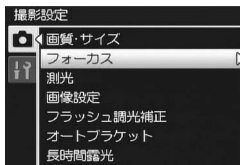
選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	9箇所のAFエリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	AFエリアを画像モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
MT AF	マルチターゲットAF	複数の位置にピントを移動し、7枚の連続撮影をします。（☞P.100）
MF	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。（☞P.101）
S	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。 無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[フォーカス] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- [マルチAF]、[スポットAF] 以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

メモ

[マルチAF] に設定している場合、デジタルズーム時は [スポットAF] として動作します。

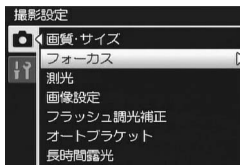
マルチターゲットAF

シャッターボタンを半押しすると、カメラが自動的に複数のピント位置を決定します。その後全押しすると、それぞれのピント位置にピントを移動し、7枚の連続撮影を行います。7枚の静止画を1組にして、MPファイルとして記録します。
この機能は、特に望遠撮影時やマクロモード時などに有効です。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

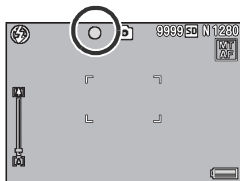
2 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

3 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[フォーカス]を選び、▶側に押す

4 ▲▼に押して、[マルチターゲットAF]を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 構図を決めて、シャッターボタンを半押しする

- カメラが自動的に複数のピント位置を検出します。
- ピント位置が検出されると、画面に○マークが点灯します。
- 決定したピント位置は、再生時のみ表示されます。(☞P.127)
- ピント位置が検出できなかった場合は、画面に○マークが点滅します。

6 シャッターボタンを全押しする

- 連続撮影が開始され、7コマ撮影されると、7コマを1つのMPファイルとして記録します。

注意

- 本機能は、オート撮影モード時のみ使用できます。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］の設定は無効になります。（☞P.111）
- 手ブレ補正機能は使用できません。手ブレ補正機能がオンの状態で［マルチターゲットAF］を設定すると、が に切り替わります。

メモ

- デジタルズーム中に本機能を設定した場合、デジタルズームは無効となり、光学ズームの最大拡大倍率（7.1倍）で撮影されます。
- ［ホワイトバランス］が［マルチパターンAUTO］に設定されている場合でも、［オート］として動作します。

MPファイル

MPファイルとは、複数の静止画を1つにしたファイル形式です。

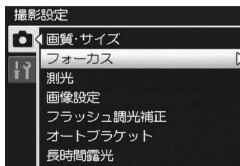
手動設定（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。
マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［フォーカス］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［MF］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に［MF］とフォーカスバーが表示されます。

5 必要に応じて、ADJ./OKボタンを長押しする

- ADJ./OKボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度ADJ./OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。

6 必要に応じて、ズームレバーでズーム位置を調節する

- ズームレバー操作中のみ、ズームバーが表示されます。

7 ADJ./OKボタンを▲▼側に押してピントを合わせる

- ▲側にを押すと遠距離方向に移動します。
- ▼側に押すと近距離方向に移動します。

8 シャッターボタンを押して撮影する

メモ--

- シーンモードでは、［ズームマクロ］、［斜め補正］のときマニュアルフォーカスが使用できます。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。

測光モード

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更することができます。
測光モードには、次の3種類があります。

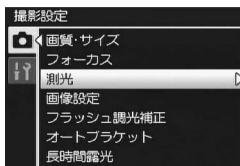
選択できるモードの種類

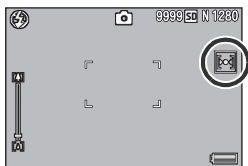
マーク	モード	内容
（マーク表示なし）	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
[•]	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
⊡	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［測光］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- ［マルチ］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

画質と色

コントラスト、シャープネス、色、色の濃さなど画像の画質を変更できます。
画質は、以下の6種類から選択できます。

選択できる画像設定の種類

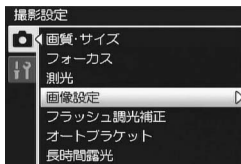
設定	内容
硬調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
普通	通常の画質です。
軟調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを低めにすることによって、軟らかい感じの画質にします。
カスタム設定	[コントラスト]、[シャープネス]、[色の濃さ] を5段階から選択できます。(☞P.105)
白黒	白黒の画像です。
セピア	セピア調の画像です。

1 撮影設定メニューを表示する

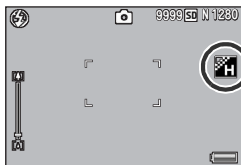
- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[画像設定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、画質を選ぶ

- [カスタム設定] の場合は、値を設定します(☞P.105)。すでに値を設定している場合は、[カスタム設定] を選択するだけで、画質が設定できます。

4 ADJ./OKボタンを押す

- [普通] 以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

メモ

ダイナミックレンジダブルショットでは、[カラー] / [白黒] / [セピア] が選択できます。

カスタム設定

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[画像設定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[カスタム設定] を選び、▶側に押す

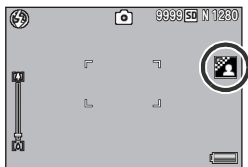
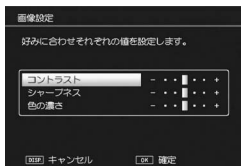
- [画像設定] 画面が表示されます。
- すでに値を設定している場合は、[カスタム設定] を選択するだけで、画質が設定できます。

4 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、[コントラスト]、[シャープネス] 、[色の濃さ] を選び、◀▶側に押してそれぞれの値を設定する

5 ADJ./OKボタンを押す

- [カスタム設定] の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

フラッシュの光量

フラッシュの光量を調整することができます。光量は、-2.0EV～+2.0EVの間で、1/3EV間隔で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

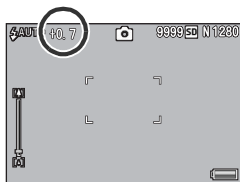
- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して、[フラッシュ調光補正]を選び、▶側に押す

- フラッシュ調光補正バーが表示されます。

3 ▲▼側に押して、値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

- フラッシュが［発光禁止］以外の場合、画面に設定値が表示されます。

メモ

フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.42を参照してください。

注意

フラッシュの撮影距離範囲外（☞P.42）では補正されない場合があります。

4

撮影設定メニュー

ブラケット撮影

ブラケット撮影は、露出／ホワイトバランス／色／フォーカス位置のいずれかを変化させながら、自動的に連続撮影する機能です。

メモ

- ダイナミックレンジダブルショット、イージー撮影モード、連写モード時は使用できません。
- ［フォーカス］を［マルチターゲットAF］に設定している場合は、使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［長時間露光］の設定は無効になります。（☞P.111）
- ［Fnボタン設定］で［AT-BKT］／［WB-BKT］／［CL-BKT］／［FOCUS-BKT］を設定する（☞P.168）と、Fn（ファンクション）ボタンでオン／オフを切り替えることができます。（☞P.66）

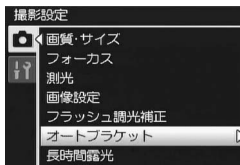
オートブラケット

オートブラケットを［ON］にすると、設定されている露出を基準に-0.5EV、±0、+0.5EVと3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影します。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［オートブラケット］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されている露出補正値を基準に、±0、-0.5EV、+0.5EVで3枚連続撮影されます。
撮影直後に画像モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.5EV（暗い）、基準の補正値、+0.5EV（明るい）です。

メモ

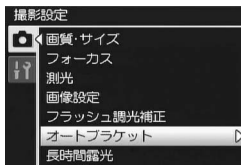
- 露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.119）
- ［ホワイトバランス］が［マルチパターンAUTO］に設定されている場合でも、［オート］として動作します。

ホワイトバランスブラケット

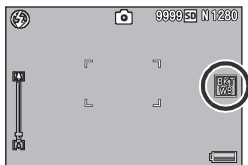
設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

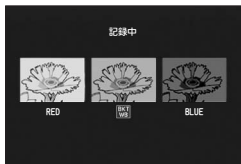
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[オートブラケット] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[WB-BKT] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。

メモ

- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。(☞P.120)
- [画像設定] を [白黒] または [セピア] に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが動作しません。

カラーブラケット

カラーブラケットでは、白黒、カラー、セピアの3枚の画像が自動的に記録されます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

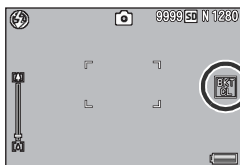
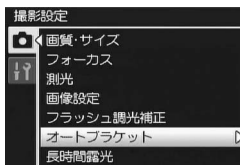
2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[オートブラケット] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[CL-BKT] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 白黒、カラー、セピアの3枚の画像が記録されます。

 カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについて --

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さは、[画像設定] で選択している項目の設定値が反映されます。ただし、[画像設定] で [白黒] または [セピア] を選択している場合は、[画像設定] の [普通] の設定値が反映されます。

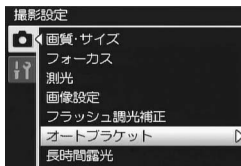
フォーカスブラケット

フォーカスブラケットでは、以下の順番でピント位置を変化させながら、自動的に5枚の画像を連続撮影します。ピント位置の間隔を調整することもできます。

1枚目：　［フォーカス］（☞P.99）の設定により測距したピント位置
2、3枚目：1枚目より前方の位置
4、5枚目：1枚目より後方の位置

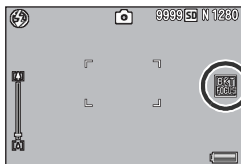
メモ
- ［フォーカス］を［MF］に設定している場合は、測距は行わず、設定しているピント位置で1枚目が撮影されます。
- ［ホワイトバランス］が［マルチパターンAUTO］に設定されている場合でも、［オート］として動作します。

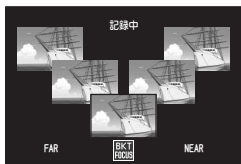
1 撮影設定メニューを表示する
- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［オートブラケット］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［FOCUS-BKT］を選び、▶側に押す

4 ADJ./OKボタンを ◀▶ 側に押して、ピント位置の間隔を設定する

5 ADJ./OKボタンを押す
- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを半押しする
- ［フォーカス］の設定により、ピント合わせが行われます。

7 シャッターボタンを全押しする
- 手順6のピント位置を基準に、5枚連続撮影されます。

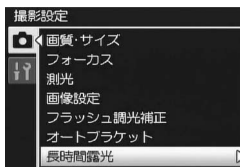
4
撮影設定メニュー

長時間露光

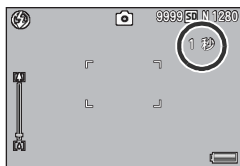
長時間露光は［1秒］、［2秒］、［4秒］、［8秒］から選択できます。長時間露光を設定すると、夜景を写したときに、花火や車などの被写体の軌跡を撮影することができます。

1 **撮影設定メニューを表示する**

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 **ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［長時間露光］を選び、▶側に押す**

3 **▲▼側に押して、設定を選ぶ**

4 **ADJ./OKボタンを押す**

- 画面に設定が表示されます。

メモ

- 長時間露光を設定すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。三脚等を使用して撮影してください。
- 長時間露光を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で長時間露光を設定すると、(手ブレ補正アイコン)が(手ブレ補正オフアイコン)に切り替わります。
- 長時間露光を設定して撮影した場合、撮影中は画像モニターが消灯します。
- ブラケット撮影、マルチターゲット AF、ダイナミックレンジダブルショット、イージー撮影モード、連写モード時は使用できません。

セルフタイマーでの複数枚撮影

セルフタイマーで複数枚撮影したい場合に、撮影間隔と撮影枚数を以下のとおり設定しておきます。

設定	内容
撮影枚数	1〜10枚の間で設定できます。購入時の設定は［2枚］です。
撮影間隔	5〜10秒までの間で設定できます。購入時の設定は［5秒］です。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［カスタムセルフ］を選び、▶側に押す

- 設定画面が表示されます。

3 ◀▶側に押して、［撮影枚数］、［撮影間隔］を選び、▲▼側に押してそれぞれの値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

［カスタムセルフ］設定後は、撮影できる状態で（セルフタイマー）ボタンを押し、［カスタムセルフ］に切り替えてから撮影してください。撮影方法の詳細はP.44を参照してください。

4 撮影設定メニュー

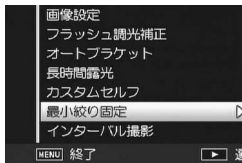
最小絞り固定

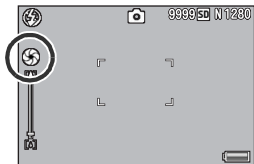
[最小絞り固定] を [ON] に設定すると、絞りを絞った状態で撮影できるので、ピントの合う範囲が広がります。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[最小絞り固定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[ON] を選ぶ

4 ADJ./OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意 --

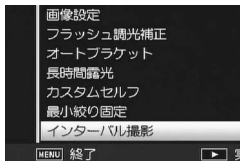
- 動画の場合は、[最小絞り固定] を設定することはできません。
- シーンモードの場合は、[ズームマクロ]、[斜め補正] のみ [最小絞り固定] を設定することができます。
- [最小絞り固定] を [ON] に設定し、[♠] (望遠) 側にズームした場合、画質が低下することがあります。
- [Fnボタン設定] で [最小絞り] を設定する (☞P.168) と、Fn (ファンクション) ボタンで [最小絞り固定] のオン/オフを切り替えることができます。(☞P.66)

一定間隔での自動撮影

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒〜1時間の間で5秒単位で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[インターバル撮影] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、時間を設定する

- インターバル撮影をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押すと撮影設定メニューに戻ります。

4 ▶ 側に押して分の設定へ移動し、▲▼側に押して、分を設定する

- ▲▼側に押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

5 ▶側に押して秒の設定へ移動し、▲▼側に押して、秒を設定する

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に [インターバル] と表示されます。

7 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

8 撮影を中止するときは、MENUボタンを押す

注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。

メモ

- ［フォーカス］を［マルチターゲットAF］に設定している場合、インターバル撮影はできません。
- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。充分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- 充分に空き容量のあるSDメモリーカードまたは高速メモリカードのご使用をお勧めします。
- インターバル撮影を設定すると、セルフタイマーの設定は無効になります。

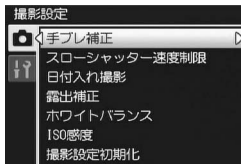
手ブレ補正

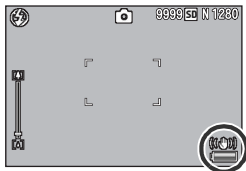
手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレが起きにくくなります。
購入時は、手ブレ補正機能がオンに設定されています。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[手ブレ補正] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[ON] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意 --

- 動画モード、連写モード、マルチターゲット AF、長時間露光の場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でマルチターゲットAFまたは長時間露光を設定すると、((手))が((手/))に切り替わります。モードダイヤルを動画または連写に合わせると、((手))の表示が消えます。
- 被写体ブレ（被写体が風などで揺れてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ --

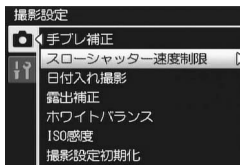
手ブレがしやすい状態だと((カメラ))マークが表示されます。（☞P.34）

シャッタースピード制限

最長シャッタースピードを次の値に制限することができます。
　1/8秒、1/4秒、1/2秒
［OFF］に設定すると、ISO感度の設定値により最長シャッタースピードは異なります。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［スローシャッター速度制限］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ---

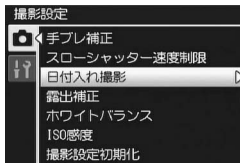
- 長時間露光の設定時は、長時間露光が優先されます。
- シーンモードの［夜景］または［夜景ポートレート］選択時は、［夜景］または［夜景ポートレート］の最長シャッタースピードが優先されます。
- フラッシュが［スローシンクロ］に設定されている時は、最長シャッタースピードが1秒になります。
- スローシャッター速度制限を使用する場合、被写体の明るさによっては光量が不足し画像が暗くなることがあります。そのときは以下の方法をお試しください。
  - ・スローシャッター速度制限を長くする
  - ・ISO感度を上げる（☞P.123）
  - ・フラッシュを使う（☞P.42）

日付入れ撮影

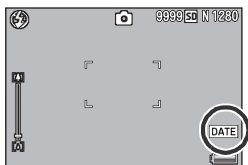
静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［日付入れ撮影］を選び、▶ 側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ

- あらかじめ日付・時刻を設定してください。（☞P.188）
- 動画に日付を入れることはできません。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

4

撮影設定メニュー

露出補正

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。撮影範囲の中央に被写体がある場合、通常は自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。
次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0〜+2.0の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

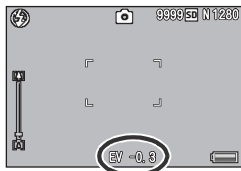
全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。
スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.96）を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 露出補正バーが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、値を設定する
- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ./OKボタンを押す
- 画面に設定値が表示されます。

メモ

明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

ホワイトバランス

白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスモードは［マルチパターンAUTO］に設定されています。単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	マルチパターンAUTO	日向／日陰、フラッシュ光の領域ごとに、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日陰等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	白熱灯2	白熱灯の下での撮影時（[白熱灯］に比べて赤みを残して撮影します）
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
WB M	手動設定	手動設定を行います。（☞P.121）

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.96）を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［M］以外の設定を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意

- ［画像設定］を［白黒］／［セピア］に設定している場合、またはシーンモードの［フェイス］／［文字］の場合は使用できません。
- 連写モード、動画モード時は、［マルチパターンAUTO］は選択できません。

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

手動設定

1 撮影モードでADJ./OKボタンを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［M］を選ぶ

4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

5 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順 5 で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ--

手動設定を解除するには、上記の手順3で［M］以外を選択します。

撮影感度（ISO感度）

ISO感度は、光に対するフィルムの敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。
ISO感度は、次の設定から選択できます。
AUTO、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

ISO感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、［AUTO］のままで撮影します。
［AUTO-HI］（高感度設定オート）も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、［AUTO］よりも感度の上限を高く設定できます。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが［AUTO］より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。［AUTO-HI］のISO 感度の上限は、セットアップメニューで設定します。（☞P.172）
ISO感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］、［AUTO-HI］以外を選択します。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ./OKボタンを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ./OKボタンの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.96）を参照して操作してください。

1. 撮影モードでADJ./OKボタンを押す
2. ISO感度のメニューが表示されるまで、ADJ./OKボタンを◀▶側に押す
3. ▲▼側に押して、設定を選ぶ
4. ADJ./OKボタンを押す
   - 画面に設定値が表示されます。

メモ

- ISO感度を［AUTO］に設定しているときにフラッシュを使用すると、最大ISO400相当の感度になります。画像サイズが3456×2592で、ISO感度を［AUTO］に設定してフラッシュを使用しない場合、ISO感度は80〜200の間で変動します。
- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO感度を［AUTO］または［AUTO-HI］に設定している場合、シャッターボタン半押し時にISO感度が表示されますが、実際のISO感度とは異なる場合があります。（フラッシュ使用時など）

撮影設定メニューの初期化

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

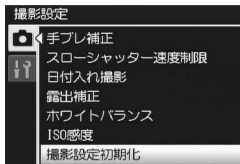
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.96を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［撮影設定初期化］を選び、▶側に押す

- 確認のメッセージが表示されます。

3 ［はい］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。

メモ--

電源をオフにしても設定値が保持される機能については、付録を参照してください。（☞P.226）

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

動画の再生

動画を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、見たい動画にする

- ▶側に押すと、1ファイル後ろを表示できます。
- ◀側に押すと、1ファイル前を表示できます。
- ▲ 側に押すと、10 ファイル前を表示します。
- ▼側に押すと、10ファイル後ろを表示します。

3 ADJ./OKボタンを押す

- 再生が始まります。
  画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中にズームレバーを[♠]側に回す
巻き戻し	再生中にズームレバーを[♠]側に回す
一時停止／再生	ADJ./OKボタンを押す
スロー再生	一時停止中にズームレバーを[♠]側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを[♠]側に回し続ける
次のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[♠]側に回す
前のフレームの表示	一時停止中にズームレバーを[♠]側に回す
音量を調節する	再生中にADJ./OKボタンを▲▼側に押す

MPファイルの再生

M連写プラス／超高速連写／マルチターゲットAFでは、1回に撮影した静止画を、1つのMPファイルとして記録します。MPファイルは、以下の方法で再生することができます。

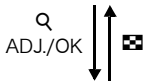
メモ--

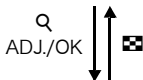
- 通常連写で撮影した画像は、通常の静止画と同じ再生方法です。
- マルチターゲットAFで撮影した場合は、ピント位置が表示されます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、再生したいMPファイルを表示する

- MPファイルは、▶マークが表示されます。

3 以下のように表示を切り替える

手順2の表示状態

- DISP. ボタンを押すと、「通常表示」と「表示なし」が切り替わります。
- ズームレバーをQ（拡大表示）側に回しても、拡大表示することはできません。一覧表示になります。
- 上記以外の操作は、通常の静止画再生時と同じです。

一覧表示

- MPファイルのコマを一覧表示します。
- ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、各コマを選択できます。
- DISP.ボタンは無効です。

1コマ表示

- 一覧表示画面で選択したコマを、1コマ表示します。
- ズームレバーをQ（拡大表示）側に回すと、拡大表示することができます。

ADJ./OK

スライドショー

- 表示していたコマを起点として、撮影した順に連写画像を自動的に表示します。

- スライドショー中の操作は、以下のとおりです。

一時停止／再生	ADJ./OKボタンを押す
早送り	再生中にズームレバーを[Q]側に回し続ける
巻き戻し	再生中にズームレバーを[W]側に回し続ける
スロー再生	一時停止中にズームレバーを[Q]側に回し続ける
スロー戻し	一時停止中にズームレバーを[W]側に回し続ける
次のコマの表示	一時停止中にズームレバーを[Q]側に回す
前のコマの表示	一時停止中にズームレバーを[W]側に回す
先頭コマの表示	一時停止中にADJ./OKボタンを◀側に押す
最終コマの表示	一時停止中にADJ./OKボタンを▶側に押す

4 MP ファイル以外を再生したい場合は、手順 2 の画面に戻り、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す

注意---

- MPファイルでは、[DPOF]、[トリミング]、[画像サイズ変更]、[斜め補正]（再生モード）、[レベル補正]、[ホワイトバランス補正］の機能は使用できません。
- MPファイル内の各コマに［画像クリップ〔設定〕］、[プロテクト］を設定することはできません。一覧表示または1コマ表示で［画像クリップ〔設定〕］、[プロテクト］を設定しても、各コマではなくMPファイルに設定されます。

MPファイル ---

MPファイルとは、複数の静止画を1つにしたファイル形式です。

5 いろいろな再生

MPファイルの書き出し

M連写プラス／超高速連写／マルチターゲットAFで撮影したMPファイルから、特定のコマを抜き出し、個別の静止画として保存することができます。

メモ

- 撮影時の画像サイズで保存されます。
- 書き出し前の画像はそのまま残ります。
- 書き出し後の画像に、マルチターゲットAFで撮影したときのピント位置は表示されません。

1 ▶（再生）ボタンを押す

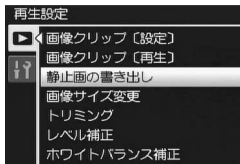
2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、書き出したいMPファイルを表示する

- MPファイルは、マークが表示されます。
- 複数コマを書き出したい場合は、ズームレバーを🔍（拡大表示）側に回し、一覧表示にしてから手順3に進んでも構いません。

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▼ 側に押して、[静止画の書き出し] を選び、▶側に押す

5
いろいろな再生

1コマ選択の場合

5 ▲▼側に押して、[1コマ] を選ぶ

- ◀▶ 側に押すと、コマを選択できます。

6 ADJ./OKボタンを押す

複数コマを個別に指定する場合

5 ▲▼ 側に押して、[複数選択] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.129の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順5の操作は不要です。

6 ▲▼側に押して、[1枚ずつ指定] を選び、ADJ./OKボタンを押す

7 ▲▼◀▶側に押して、コマを選択し、ADJ./OKボタンを押す

- MENUボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。P.131の手順7以降を参照してください。

8 手順7を繰り返して、コマをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、コマを選択して ADJ./OK ボタンを再度押すと解除できます。

9 Fn（ファンクション）ボタンを押す

10 ADJ./OK ボタンを◀▶側に押して、[はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

複数コマの範囲を指定する場合

5 ▲▼側に押して、[複数選択]を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.129の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順5の操作は不要です。

6 ▲▼ 側に押して、[範囲を指定]を選び、ADJ./OKボタンを押す

7 ▲▼◀▶側に押して、指定したい範囲の始点になるコマを選び、ADJ./OKボタンを押す

- 始点になるコマを間違えて選択したときは、ADJ./OK ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。
- MENUボタンを押すと、1ファイルずつ指定する画面に切り替わります。P.130の手順7以降を参照してください。

8 ▲▼◀▶側に押して、指定したい範囲の終点になるコマを選び、ADJ./OKボタンを押す

9 手順7、8を繰り返して、範囲をすべて指定する

10 Fn（ファンクション）ボタンを押す

11 ADJ./OK ボタンを◀▶ 側に押して、[はい]を選び、ADJ./OKボタンを押す

全コマ選択の場合

5 ▲▼側に押して、[全コマ]を選び、▶側に押す

6 ◀▶ 側に押して、[はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

再生設定メニューについて

再生モードでMENUボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
画像クリップ〔設定〕	――――――	P.134
画像クリップ〔再生〕	――――――	P.136
静止画の書き出し	キャンセル、1コマ、複数選択、全コマ	P.129
画像サイズ変更	1280、640	P.137
トリミング	――――――	P.139
レベル補正	AUTO、MANUAL	P.141
ホワイトバランス補正	――――――	P.144
斜め補正	――――――	P.146
プロテクト	キャンセル、1ファイル、複数選択、全ファイル選択、全ファイル解除	P.148
スライドショー	――――――	P.151
内蔵メモリーからカードへコピー	――――――	P.152
DPOF	キャンセル、1ファイル、全ファイル選択、全ファイル解除	P.153
ファイル復元	――――――	P.156

メモ--

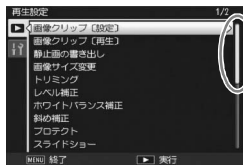
再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(☞P.159)

6 再生設定メニュー

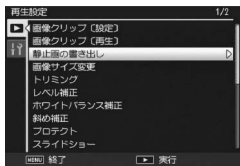
メニューの操作方法

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

表示している画面の範囲を示しています。

3 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でDISP.ボタンを押すと、再生設定メニュータブにカーソルが移動します。
- 一番下の項目でADJ./OKボタンを▼側に押すと、次の設定画面が表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

すぐに表示させたい画像の登録（画像クリップ〔設定〕）

旅先でメモとして撮影した電車の時刻表や地図など、すぐに呼び出したいファイルを［画像クリップ〔設定〕］で登録しておくと、再生時にFn（ファンクション）ボタンですぐに表示することができます。[画像クリップ〔設定〕]では、3ファイルまで登録することができます。

1ファイルずつ登録／解除する

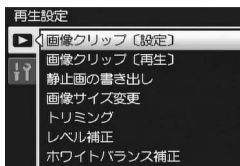
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、登録または解除したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 [画像クリップ〔設定〕] が選ばれていることを確認し、ADJ./OKボタンを▶側に押す

- [画像クリップ〔設定〕] 画面が表示されます。

5 登録したい場合は［登録]、解除したい場合は［解除］が選ばれていることを確認して、ADJ./OKボタンを押す

- 登録すると、画面にマークが表示されます。
- すでに3ファイルを登録している場合は、それ以上登録できません。

メモ

静止画の場合は、拡大表示した状態で登録すると、拡大倍率と拡大個所が保持され、同じ状態で呼び出すことができます。

6 再生設定メニュー

複数のファイルを一度に登録／解除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、登録または解除したい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

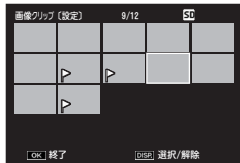
5 ［画像クリップ〔設定〕］が選ばれていることを確認し、ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 登録すると､ファイルにマークが表示されます。
- すでに3ファイルを登録している場合は、それ以上登録できません。

6 ▲▼◀▶側に押して、次に登録または解除したいファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、登録または解除したいファイルをすべて選択する

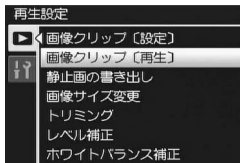
- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態で ADJ./OK ボタンを再度押してください。

8 DISP.ボタンを押す

注意

- ［画像クリップ〔設定〕］で登録したファイルの名前をパソコンで変更した場合は、［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。
- 内蔵メモリーの内容をSDカードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。
- SDメモリーカード内のファイルを［画像クリップ〔設定〕］で登録すると､SDメモリーカード内に［CLIPINFO］フォルダおよびCLIP.CLIファイルが作成されます。これらを削除した場合､［画像クリップ〔設定〕］の登録はすべて解除されます。
- 撮影したファイルの名前をパソコンで変更した場合、［画像クリップ〔設定〕］で登録できない場合があります。
- ［画像クリップ〔設定〕］で登録できるのは、本カメラで撮影した画像のみです。

登録画像の呼び出し（画像クリップ〔再生〕）

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 Fn（ファンクション）ボタンを押す、または再生設定メニューから［画像クリップ〔再生〕］を選び、ADJ./OK ボタンを▶側に押す

- ［画像クリップ〔設定〕］で登録したファイルのうち、ファイル番号が一番小さいファイルが表示されます。
- 静止画の場合は、ズームレバーで画像を拡大/縮小することができます。また、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して拡大個所を移動することができます。ここで変更した拡大倍率や拡大個所は保持され、次回も同じ状態で表示されます。
- この状態でシャッターボタンまたは▶ボタンを押すと、撮影モードになります。
- ［画像クリップ〔設定〕］でファイルを登録していない場合は、メッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。

3 必要に応じて、Fnボタンを押す

- ［画像クリップ〔設定〕］で複数のファイルを登録した場合は、Fnボタンを押すと、ファイル番号が小さい順に表示されます。

メモ--

登録ファイルを等倍表示しているときに、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押すと、前の画像/次の画像を表示することができます。

画像サイズ変更

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3456／N3456／F3:2／F1:1／N3072／N2592／N2048／N1728	N1280	N640
N1280	N640	

注意

画像サイズ変更ができるのは、静止画のみです。動画、MPファイルは画像サイズ変更できません。

メモ

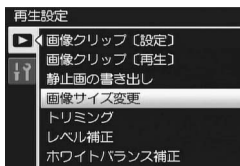
- ［F3:2］の画像は、横と縦の比率が 3:2 です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- ［F1:1］の画像は、横と縦の比率が同じです。この画像をリサイズした場合、左右に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（☞P.97）

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［画像サイズ変更］を選び、▶側に押す

5 ▲▼側に押して、[1280] または [640] を選ぶ

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の記録されます。変更前の画像も残ります。

トリミング

撮影した静止画をトリミングし、別のファイルとして記録することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、トリミングしたいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[トリミング] を選び、▶側に押す

- [トリミング] 画面が表示されます。
- トリミングをキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

5 ズームレバーを Q 側や ▦ 側に回して、トリミング枠の大きさを指定する

- この画面で Fn（ファンクション）ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度Fnボタンを押すと、元の画面に戻ります。

6 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、トリミング枠の位置を指定する

7 ADJ./OKボタンを押す

- トリミング後の画像が記録されます。トリミング前の画像も残ります。

注意--

- トリミングできるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MPファイルはトリミングできません。
- トリミングは繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

メモ--

- トリミングすると、画像の圧縮率はすべてNormalになります。
- 指定できるトリミング枠の大きさは、元画像のサイズによって異なります。ズームレバーをQ側に回すたびにトリミング枠は1段階小さくなり、最小で13段階まで指定できます。

- トリミング後の画像サイズは、元画像のサイズと、トリミングの段階（トリミング枠の大きさ）によって決まります。下記の表を参照してください。（[トリミング］画面で最初に表示されるトリミング枠は、2段階目です。ズームレバーを■側に回すと、1段階目の枠（最大枠）になります。）

元画像のサイズ	トリミングの段階	トリミング後の画像サイズ
3456×2592	1	3072×2304
	2、3	2592×1944
	4、5	2048×1536
	6～9	1280×960
	10～13	640×480
3456×2304（*1）	1	3072×2304
	2	2592×1944
	3～5	2048×1536
	6～9	1280×960
	10～13	640×480
2592×2592（*2）	1	2592×1944
	2～4	2048×1536
	5～8	1280×960
	9～12	640×480
3072×2304	1、2	2592×1944
	3、4	2048×1536
	5～8	1280×960
	9～12	640×480
2592×1944	1	2592×1944
	2、3	2048×1536
	4～7	1280×960
	8～12	640×480
2048×1536	1、2	2048×1536
	3～6	1280×960
	7～10	640×480
1728×1296	1	1728×1296
	2～5	1280×960
	6～9	640×480
1280×960	1～3	1280×960
	4～8	640×480
640×480	1～4	640×480

（*1）［F3:2］の画像は、横と縦の比率が3:2ですが、トリミングをすると4:3の比率の画像になります。
（*2）［F1:1］の画像は、横と縦の比率が同じですが、トリミングをすると4:3の比率の画像になります。

画像の明度、コントラストの補正

撮影した静止画の明度、コントラストを［AUTO］または［MANUAL］で補正して記録することができます。［MANUAL］では、ヒストグラムを調整しながら画像を補正します。

メモ

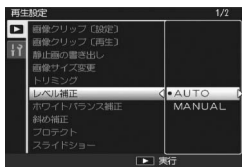
ヒストグラム表示の詳細については、P.60を参照してください。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［レベル補正］を選び、▶側に押す

オートで補正する

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、［AUTO］を選び、▶側に押す

- 左上に元画像、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

マニュアルで補正する

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、[MANUAL] を選び、▶側に押す

- 左上に元画像、左下にヒストグラム、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。

6 MENU ボタンを押して、ヒストグラム下のポイントを切り替える

ポイント

- ヒストグラムの縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を表しています。MENUボタンを押すたびに、左端、真中、右端のポイントを切り替えることができます。
- この画面で Fn（ファンクション）ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度Fnボタンを押すと、元の画面に戻ります。

7 ADJ./OKボタンを◀▶側に押して、ポイントの位置を調整し、画像を補正する

- 左右のポイントの位置を移動すると、真中のポイントも移動します。

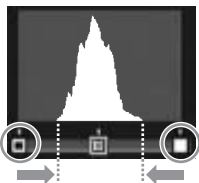
補正方法例 --

- 例1）画像の全体的な明るさを調整したい場合：
  真中のポイントを選択して左に移動すると、画像が全体的に明るくなります。
  真中のポイントを右に移動すると、画像が全体的に暗くなります。

6 再生設定メニュー

- 例 2）露出オーバーまたは露出アンダーの画像を補正したい場合：
露出オーバーの場合は、左側のポイントを右に移動し、ヒストグラムの山の左端に合わせます。
露出アンダーの場合は、右側のポイントを左に移動し、ヒストグラムの山の右端に合わせます。
この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。

露出オーバーの場合

- 例3）画像のコントラストをはっきりさせたい場合：
コントラストのはっきりしない画像の場合、ヒストグラムの山は中央寄りに集中しています。左右のポイントを移動してそれぞれヒストグラムの山の両端に合わせると、明るい部分と暗い部分がはっきりした画像になります。
この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。

8 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

注意

- レベル補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MPファイルはレベル補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- レベル補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

ホワイトバランス補正

撮影した静止画の色調を、グリーン、マゼンタ、ブルー、アンバーそれぞれの色合いに補正して記録することができます。

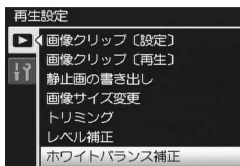
1 ▶（再生）ボタンを押す

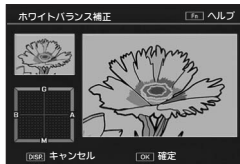
2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ホワイトバランス補正］を選び、▶側に押す

- 左上に元画像、左下にホワイトバランス補正マップ、右に補正画像が表示されます。
- ホワイトバランス補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。

5 ▲▼◀▶側に押して、ホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整し、色調を補正する

- ▲▼◀▶側に押すと、ホワイトバランス補正マップのポイントが移動します。[G] はグリーン、[A] はアンバー、［M］はマゼンタ、［B］はブルーを示し、ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。
- ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- 補正中の色調をリセットしたい場合は、🗑ボタンを押します。
- この画面で Fn（ファンクション）ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度Fnボタンを押すと、元の画面に戻ります。

6 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

注意

- ホワイトバランス補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MPファイルはホワイトバランス補正することはできません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［セピア］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ホワイトバランス補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

斜め補正

斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

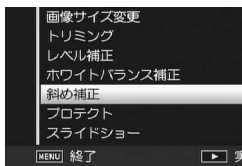
2 ADJ./OK ボタンを ▲▼◀▶ 側に押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［斜め補正］を選び、▶側に押す

画像サイズ変更
トリミング
レベル補正
ホワイトバランス補正
斜め補正
プロテクト
スライドショー
MENU 終了　▶ 実

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、ADJ./OKボタンを▶側に押して、目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、ADJ./OKボタンを▲側に押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

5 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、MPファイルは斜め補正することはできません。

メモ--

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.137）、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間
3456×2592	約20秒
3072×2304	約15秒
2592×1944	約12秒
2048×1536	約8秒
1728×1296	約7秒
1280×960	約6秒
640×480	約2秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（☞P.75）

プロテクト

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

注意 --

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

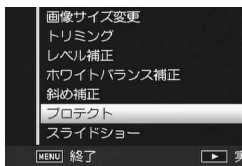
- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、プロテクトまたは解除したいファイルを表示する

- 複数コマをプロテクトまたは解除したい場合は、ズームレバーを ▦（サムネイル表示）側に回し、一覧表示にしてから手順3に進んでも構いません。

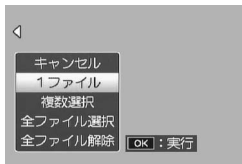
3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを▼ 側に押して、［プロテクト］を選び、▶側に押す

1ファイルをプロテクト／解除する場合

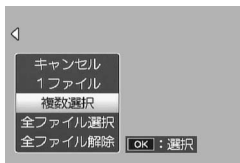
6 ▲▼側に押して、［1ファイル］を選ぶ

- ◀▶ 側に押すと、ファイルを選択できます。

7 ADJ./OKボタンを押す

複数ファイルを個別に指定する場合

5 ▲▼ 側に押して、[複数選択] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.148の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順5の操作は不要です。

6 ▲▼側に押して、[1枚ずつ指定] を選び、ADJ./OKボタンを押す

7 ADJ./OK ボタンを▲▼◀▶側に押して、ファイルを選択し、ADJ./OKボタンを押す

- MENUボタンを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。「複数ファイルの範囲を指定する場合」の手順7以降を参照してください。

8 手順7を繰り返して、ファイルをすべて選択する

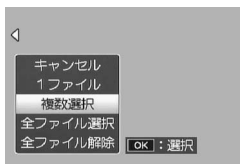
- 間違えて選択したときには、ファイルを選択してADJ./OK ボタンを再度押すと解除できます。

9 Fn（ファンクション）ボタンを押す

複数ファイルの範囲を指定する場合

5 ▲▼ 側に押して、[複数選択] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- P.148の手順2で一覧表示にしていた場合は、手順5の操作は不要です。

6 ▲▼ 側に押して、[範囲を指定] を選び、ADJ./OKボタンを押す

7 ▲▼◀▶側に押して、指定したい範囲の始点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

- 始点になるファイルを間違えて選択したときは、DISP. ボタンを押すと、始点を選択する画面に戻ります。
- MENUボタンを押すと、1ファイルずつ指定する画面に切り替わります。「複数ファイルを個別に指定する場合」の手順7以降を参照してください。

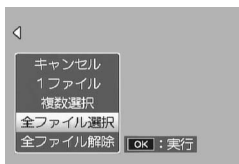
8 ▲▼◀▶側に押して、指定したい範囲の終点になるファイルを選び、ADJ./OKボタンを押す

9 手順7、8を繰り返して、範囲をすべて指定する

10 Fn（ファンクション）ボタンを押す

全ファイルをプロテクト／解除する場合

5 ▲▼ 側に押して、[全ファイル選択] または [全ファイル解除] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

6 ADJ./OK ボタンを◀▶ 側に押して、[はい] を選び、ADJ./OK ボタンを押す

スライドショー

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

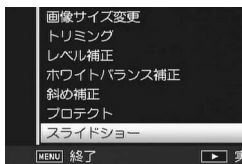
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[スライドショー] を選び、▶ 側に押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。
  中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ--

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画とMPファイルは、撮影した内容がすべて表示されます。

内蔵メモリーからカードへのコピー

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

1 電源をオフにする

2 SDメモリーカードをセットする

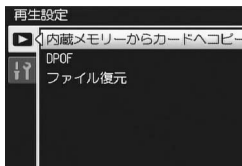
3 電源をオンにする

4 ▶（再生）ボタンを押す

5 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［内蔵メモリーからカードへコピー］を選び、▶側に押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。

 メモ

- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、［はい］を選んでADJ./OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、［いいえ］を選んでADJ./OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。
- 内蔵メモリーの内容をSDカードへコピーした場合は、内蔵メモリーでの［画像クリップ〔設定〕］の登録は解除されます。

プリント予約（DPOF：ディーポフ）

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。
DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。複数の画像にDPOF設定を行って、印刷枚数を指定することもできます。

1ファイルをDPOF設定／解除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、設定または解除したい静止画を表示する

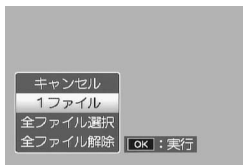
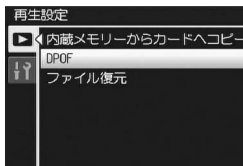
3 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[DPOF] を選び、▶側に押す

5 ▲▼側に押して、[1ファイル] を選ぶ

- ◀▶ 側に押すと、ファイルを選択できます。

6 ADJ./OKボタンを押す

全ファイルをDPOF設定／解除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

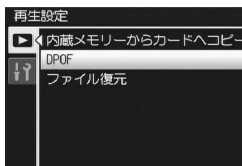
2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［DPOF］を選び、▶側に押す

4 ▲▼ 側に押して、［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ズームレバーを▦（サムネイル表示）側に回す

- ファイルが一覧表示されます。

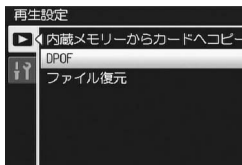
3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ

4 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[DPOF] を選び、▶側に押す

6 ▲▼ 側に押して、印刷枚数を指定する

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

7 ◀▶側に押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8 ▲▼側に押して、印刷枚数を指定する

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

9 手順7、8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

10 ADJ./OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ--

- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定してADJ./OKボタンを押します。
- 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。（☞P.154）

削除したファイルの復元

削除したすべてのファイルを、元の状態で復元することができます。

ただし、以下の操作を行うと、それ以前に削除したファイルは復元することができなくなります。

- 電源を切る
- 再生モードから撮影モードに切り替える
- DPOF、画像サイズ変更、内蔵メモリーからカードへコピー、斜め補正、レベル補正、ホワイトバランス補正、トリミングを行う
- DPOF設定したファイルを削除する
- 内蔵メモリーまたはSDメモリーカードを初期化する
- [画像クリップ〔設定〕] で登録または解除を行う
- [画像クリップ〔設定〕] の登録画像の拡大倍率や拡大個所を変更する
- [静止画の書き出し] でMPファイルを書き出す

1 ▶（再生）ボタンを押す

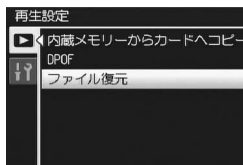
2 MENUボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[ファイル復元] を選び、▶側に押す

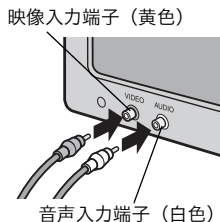
- 復元を確認する画面が表示されます。
- 復元するファイルがない場合は、確認のメッセージが表示されます。

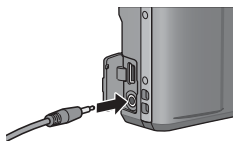
4 ▶側に押して [はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ファイルが元の状態ですべて復元されます。

テレビ再生

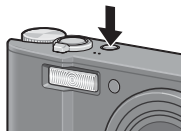
撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には画像モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るには、次のように操作します。

1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

- AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 AV出力端子にAVケーブルをしっかり接続する

4 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

5 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを長押しして、電源をオンにする

注意

- AVケーブルで本機を接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AVケーブルは無理に差し込まないでください。
- AVケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AVケーブルの使用中は､AVケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式はNTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、カメラのセットアップメニューでPAL方式に設定してから接続してください。（☞P.190）

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.93）や再生設定メニュー（☞P.132）からセットアップメニューを表示して､カメラの設定変更ができます。セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
初期化〔カード〕	――――――	P.162
初期化〔内蔵メモリー〕	――――――	P.163
画像モニター輝度調節	――――――	P.164
マイセッティング登録	MY1、MY2	P.165
ステップズーム	ON、[OFF]	P.167
Fnボタン設定	OFF､[マクロターゲット]､ステップズーム、AEロック、AF/マルチターゲットAF、AF/MF、AF/スナップ、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT、最小絞り	P.168
ADJ.ボタン設定1*1 ADJ.ボタン設定2*2 ADJ.ボタン設定3*3 ADJ.ボタン設定4*4	OFF、[露出補正] *1、[ホワイトバランス] *2、[ISO] *3、[画質] *4、フォーカス、画像設定、測光、オートブラケット、調光補正、最小絞り	P.170
ISO AUTO-HI 設定	[AUTO 400]､AUTO 800､AUTO1600	P.172
AF補助光	[ON]、OFF	P.173
操作音	[すべて]、水準器音、シャッター音	P.174
操作音音量設定	□□□（なし)、■□□（小)、[■■□]（中)、■■■（大)	P.175
画像確認時間	OFF、[0.5秒]、1秒、2秒、3秒、HOLD	P.176
オートパワーオフ	OFF、[1分]、5分、30分	P.177
画像モニター節電	[ON]、OFF	P.178
デジタルズーム切替	[通常]、オートリサイズ	P.179
水準器設定	OFF、[表示のみ]、表示＋音、音のみ	P.181
撮影情報表示フレーム	ON、[OFF]	P.182
最短撮影距離表示	[表示]、非表示	P.183

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
縦横自動回転再生	［ON］、OFF	P.184
カード連続NO.	ON、［OFF］	P.186
日時設定	――――――――	P.188
Language／言語※	日本語、English	P.189
ビデオ方式※	NTSC、PAL	P.190

※初期設定は、仕向け地によって異なります。

メモ--

- イージー撮影モード時は、セットアップメニューの項目数、表示順が他の撮影モード時とは異なります。各設定内容は、他の撮影モード時と同じです。
- ［Fn ボタン設定］と［ADJ. ボタン設定 1/2/3/4］は、撮影モードによって設定可能項目が異なります。詳細は、各参照先をご覧ください。

メニューの操作方法

本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順8）は「ADJ./OKボタンを押す」と説明していますが、ADJ./OKボタンを◀側に押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

1 MENUボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ADJ./OKボタンを◀側に押す

- シーンモードまたは連写モードの場合は、ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押し、［MODE］タブを選択します。その後▼側に2回押すと、セットアップメニューが表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▼側に押す

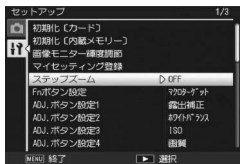
- セットアップメニューが表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▶側に押す

表示している画面の範囲を示しています。

7 セットアップメニュー

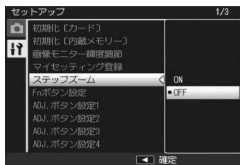
5 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、設定する項目を選ぶ

- この画面で DISP. ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押すと、次の設定画面が表示されます。

6 ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

7 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、選択肢を選ぶ

8 ADJ./OKボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。
- 手順8でADJ./OKボタンを◀側に押すと、設定が確定して手順5の画面に戻ります。

メモ

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

SDメモリーカードの初期化

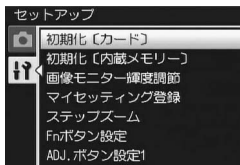
［使用できないカードです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンや他のデジタルカメラで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。
初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。

注意 --
画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ［初期化〔カード〕］が選ばれていることを確認し、ADJ./OKボタンを▶側に押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

誤って画像を消さないようにするには --
カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります（☞P.26）。「LOCK」を解除する（スイッチを元の状態に戻す）と、撮影や削除、初期化が可能な状態に戻ります。

内蔵メモリーの初期化

[内蔵メモリーを初期化してください。] というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。

注意 --

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されている画像はすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。(☞P.152)

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

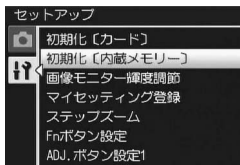
2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[初期化〔内蔵メモリー〕] を選び、▶側に押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

セットアップ
初期化〔カード〕
初期化〔内蔵メモリー〕
画像モニター輝度調節
マイセッティング登録
ステップズーム
Fnボタン設定
ADJ.ボタン設定1

3 ◀▶ 側に押して [はい] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

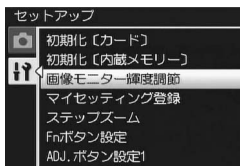
4 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

画像モニターの輝度調節

画像モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[画像モニター輝度調節] を選び、▶側に押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。

3 ▲▼側に押して、明るさを調節する

- 画像モニター輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。
- 輝度調節をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押すと、設定がキャンセルされ、撮影設定メニューに戻ります。

4 設定したい明るさになったら、ADJ./OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ--

セットアップメニューで[画像モニター節電]を[ON]に設定する(☞P.178)と、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度が落ちます。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。

マイセッティング内容の登録

マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。
マイセッティングは2種類登録できます。モードダイヤルをMY1に合わせると、[MY1]で登録した設定で撮影できます。モードダイヤルをMY2に合わせると、[MY2]で登録した設定で撮影できます。(☞P.81)
現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

1 マイセッティングとして登録したい内容に、カメラの設定を変更する

2 セットアップメニューを表示する

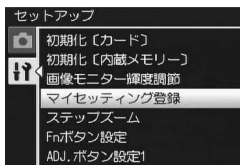
- 操作手順は、P.160を参照してください。

3 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[マイセッティング登録] を選び、▶側に押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ◀▶ 側に押して、[MY1] または [MY2] を選び、ADJ./OKボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP.ボタンを押してください。

5 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

[マイセッティング登録]で保持される内容

撮影モード（/ /MY1/MY2/SCENE/DR/ ）
画質・サイズ
フォーカス
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
測光
画像設定
フラッシュ調光補正
ダイナミックレンジ拡大効果
＋通常撮影
オートブラケット
CL-BKT
FOCUS-BKT
WB-BKT
長時間露光
カスタムセルフ
最小絞り固定
手ブレ補正
スローシャッター速度制限
日付入れ撮影
露出補正
ホワイトバランス
ISO感度
ズーム位置
マクロ
フラッシュモード
シーンモード
セルフタイマー
DISP.モード
ステップズーム
デジタルズーム切替
水準器設定
最短撮影距離
文字濃度
フレームレート

ズームの焦点距離固定

ズームの焦点距離を、7段階（28mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mm相当*）に固定する設定をステップズームといいます。
* 35mm判カメラ換算値です。

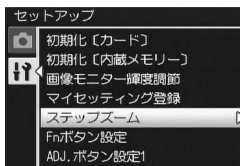
設定
ON（ステップズームを使用する）
OFF（ステップズームを使用しない）※購入時の設定

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[ステップズーム] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[ON] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- マクロモード時、ステップズームの焦点距離は35mmフィルムカメラ換算でおよそ32mm、35mm、50mm、85mm、105mm、135mm、200mmになります。
- [Fnボタン設定] で [ステップズーム] を設定する（☞P.168）と、Fn（ファンクション）ボタンでステップズームのオン／オフを切り替えることができます。（☞P.73）

Fn（ファンクション）ボタン設定

Fnボタンに機能を登録すると、Fnボタンを押すだけで色々な機能を切り替えることができます。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。Fnボタンの操作方法は、各参照先を参照してください。

設定	内容	参照先
逆光補正 (*1)	逆光補正機能のオン／オフを切り替える	P.67
マクロターゲット (*2)	カメラを動かさずにAFターゲットを移動して、マクロ撮影をする	P.68
AEロック	露出を固定する	P.69
AF/マルチターゲットAF	オートフォーカス (*3) とマルチターゲットAFを切り替える	P.70
AF/MF	オートフォーカス (*3) とマニュアルフォーカスを切り替える	P.71
AF/スナップ	オートフォーカス (*3) とスナップを切り替える	P.72
ステップズーム、AT-BKT、WB-BKT、CL-BKT、FOCUS-BKT、最小絞り	各機能のオン／オフを切り替える	P.73

(*1) イージー撮影モードの、購入時の設定
(*2) イージー撮影モード以外の、購入時の設定
(*3) ［マルチAF］または［スポットAF］

メモ

- 撮影モード別の設定可能項目は、以下のとおりです。

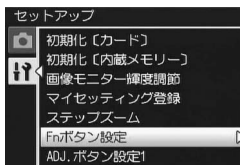
設定		SCENE (*)						EASY	DR	(*)
		フェイス・遠景	高感度	ズームマクロ	斜め補正	文字	左記以外			
逆光補正	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−
マクロターゲット	○	−	○	○	○	○	−	○	○	○
ステップズーム	○	○	○	○	○	○	○	−	○	○
AEロック	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−
AF/マルチターゲットAF	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−
AF/MF	○	−	−	○	○	−	−	−	○	○
AF/スナップ	○	−	○	−	○	−	○	−	○	○
AT-BKT	○	−	−	○	−	−	−	−	−	−
WB-BKT	○	−	−	○	−	−	−	−	−	−
CL-BKT	○	−	−	○	−	−	−	−	−	−
FOCUS-BKT	○	−	−	○	−	−	−	−	−	−
最小絞り	○	−	−	○	○	−	−	−	○	−

(*) シーンモード、動画モード時は、○以外の項目も登録はできますが、Fnボタンを押しても動作しません。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[Fnボタン設定] を選び、▶ 側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

ADJ.ボタン設定

ADJ./OKボタンに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、少ないボタン操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。
［ADJ.ボタン設定1］～［ADJ.ボタン設定4］で、ADJ./OKボタンを押して表示できる機能を登録します。
ADJ.モードの操作方法は、P.62を参照してください。
ADJ./OKボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。

設定		参照先
OFF		ー
露出補正	※購入時［ADJ.ボタン設定1］の設定	P.119
ホワイトバランス	※購入時［ADJ.ボタン設定2］の設定	P.120
ISO	※購入時［ADJ.ボタン設定3］の設定	P.123
画質	※購入時［ADJ.ボタン設定4］の設定	P.97
フォーカス		P.99
画像設定		P.104
測光		P.103
オートブラケット		P.107
調光補正		P.106
最小絞り		P.113
文字濃度		P.80

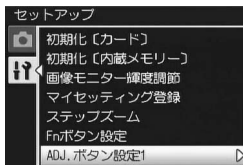
- 撮影モード別の設定可能項目は、以下のとおりです。

設定		SCENE(*)			(*)EASY			DR	(*)
		文字	フェイス	左記以外		連写	M連写プラス 超高速連写		
露出補正	○	−	○	○	−	○	○	○	−
ホワイトバランス	○	−	−	○	−	○	○	○	○
ISO	○	−	−	−	−	○	○	−	−
画質	○	−	−	−	○	○	−	○	−
フォーカス	○	−	−	−	−	○	○	○	−
画像設定	○	−	−	−	−	○	○	○	−
測光	○	−	−	−	−	○	○	○	−
オートブラケット	○	−	−	−	−	−	−	−	−
調光補正	○	−	−	−	−	−	−	−	−
最小絞り	○	−	−	−	−	○	○	−	−
文字濃度	−	○	−	−	−	−	−	−	−

(*) シーンモード、イージー撮影モード、動画モード時の項目は固定されており、変更することはできません。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[ADJ.ボタン設定1]、[ADJ.ボタン設定2]、[ADJ.ボタン設定3]、[ADJ.ボタン設定4] のいずれかを選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

ISO AUTO-HI の設定

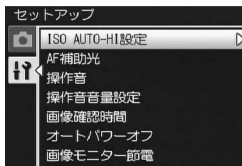
撮影設定メニューの［ISO感度］で設定する［AUTO-HI］（高感度設定オート）（☞P.123）のISO感度の上限を変更することができます。

設定
AUTO 400　※購入時の設定
AUTO 800
AUTO1600

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ISO AUTO-HI 設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

AF補助光

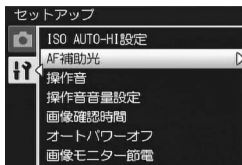
オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。
[AF補助光]を[ON]に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[AF補助光]を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

操作音の設定

カメラの操作中は、以下の5種類の操作音が鳴ります。

起動音	：カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	：シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音	：シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	：実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。
水準器音	：[水準器設定] を [表示+音] または [音のみ] に設定している場合（☞P.181）、撮影モードでカメラが水平状態のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

設定できる値	内容
すべて ※購入時の設定	すべて鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、水準器音のみ鳴らす

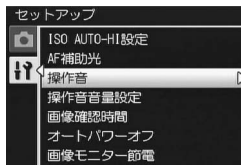
メモ--

実行できない動作を行おうとしたときは、[操作音] の設定にかかわらず、警告音が鳴ります。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[操作音] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

操作音の音量調節／消音

操作音の音量を変更できます。

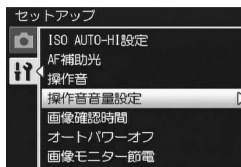
設定
□□□（なし）
■□□（音量小）
■■□（音量中）※購入時の設定
■■■（音量大）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［操作音音量設定］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合は、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても（☞P.181）、水準器音は鳴りません。

画像確認時間

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

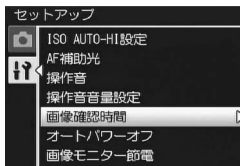
設定
OFF（確認のための表示を行わない）
0.5秒 ※購入時の設定
1秒
2秒
3秒
HOLD（次にシャッターボタンを半押しするまで、確認画像を表示し続ける）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、［画像確認時間］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

［HOLD］に設定すると、確認表示中の画像を拡大表示したり（☞P.49）、削除したり（☞P.51）することができます。

オートパワーオフ

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

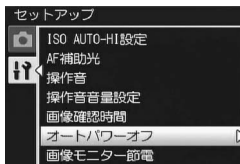
設定
OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
1分 ※購入時の設定
5分
30分

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[オートパワーオフ] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- オートパワーオフによって電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを長押ししても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフ機能は、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフ機能は働きません。

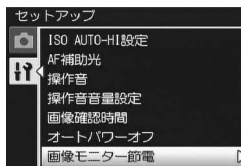
節電モード

［画像モニター節電］を［ON］に設定すると、画像モニターを点灯した状態で約5秒間カメラを動かさなかった場合に、節電のために画像モニターの輝度が落ちます。その場合、カメラを動かすか、いずれかのボタン押すと元に戻ります。購入時には［ON］に設定されています。

1 **セットアップメニューを表示する**

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 **ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［画像モニター節電］を選び、▶側に押す**

3 **▲▼側に押して、［ON］を選ぶ**

注意 --

シンクロモニターモードの場合（☞P.55）は、［画像モニター節電］の設定は無効となります。

7

セットアップメニュー

オートリサイズズーム

撮影する画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録するので、拡大による画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。
オートリサイズズームは、[画質・サイズ]を3456×2592に設定しているときのみ働きます。(☞P.97)

選択できる設定

設定	内容
通常 ※購入時の設定	通常のデジタルズームです。[画質・サイズ]で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。

メモ

[画質・サイズ]が3456×2592以外の場合は、デジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

画像・サイズ	ズーム倍率	焦点距離(*)
3456×2592(9M)	1.0倍	200mm
3072×2304(7M)	1.1倍	220mm
2592×1944(5M)	1.3倍	260mm
2048×1536(3M)	1.7倍	330mm
1280×960(1M)	2.7倍	540mm
640×480(VGA)	5.4倍	1080mm

(*) 35mm判カメラ換算値です。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[デジタルズーム切替] を選び、▶側に押す

操作音音量設定
画像確認時間
オートパワーオフ
画像モニター節電
デジタルズーム切替
水準器設定
撮影情報表示フレーム
MENU 終了

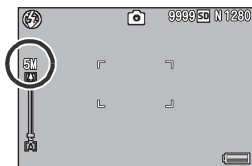
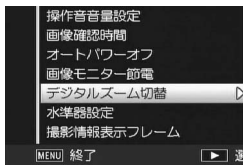
3 ▲▼側に押して、[オートリサイズ] を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 ズームレバーを[♠]（望遠）側にまわし続け、ズームバー表示が[♠]側の端まできたらいったんズームレバーから指を離し、再びズームレバーを[♠]側に回す

- さらにズームレバーを [♠] 側に回すごとに、1段階ずつ画像サイズが変更されます。
- 記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。

注意

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、［オートリサイズ］に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- 画質をFineモードに設定してオートリサイズズームを使用すると、記録時にNormalモードに変換されます。

水準器の確認方法

[水準器設定] をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを、水平インジケーターや水準器音で確認することができます。確認方法は以下の中から設定できます。撮影時の水準器の使用方法については、P.57を参照してください。

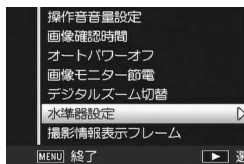
設定	内容
OFF	水平インジケーターは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ ※購入時の設定	水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示+音	水平インジケーターが表示され、カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケーターは表示されません。カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。
- 撮影できる状態でDISP.ボタンを長押しした場合でも、設定画面を表示できます。DISP.ボタンを長押しした場合は手順3へ進んでください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して [水準器設定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

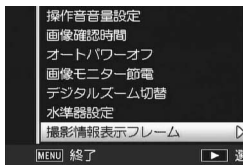
- 撮影時の水準器の使用方法については、P.57を参照してください。
- 動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- [操作音音量設定] を [□□□] (なし) に設定している場合、[水準器設定] を [表示+音] または [音のみ] に設定しても、水準器音は鳴りません。

撮影情報表示フレーム

［撮影情報表示フレーム］を［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示（☞P.55）のときに、撮影情報フレームを表示することができます。撮影情報表示フレームでは、撮影情報が被写体と重ならないため、撮影時に構図どりがしやすくなります。

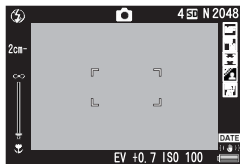
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［撮影情報表示フレーム］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、［ON］を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

5 DISP. ボタンを押して、画面表示を切り替える

- マーク表示とヒストグラム表示（☞P.55）のときに、撮影情報フレームを表示することができます。

メモ

- イージー撮影モード時は、DISP.ボタンで画面の表示を切り替えることはできません。
- 動画モード時は、撮影情報フレームは表示できません。

最短撮影距離の表示

撮影時は、ズームの位置によって最短撮影距離が変わりますが、[最短撮影距離表示]を[表示]に設定すると、最短撮影距離を画像モニターに表示することができます。

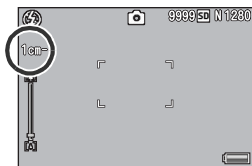
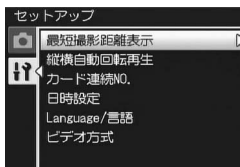
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して、[最短撮影距離表示]を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、[表示]を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 画面に最短撮影距離が表示されます。

再生画像の向きの自動補正

カメラの向きが撮影時と再生時で異なる場合に、再生画像の向きを自動補正するかどうか設定します。

設定	内容
ON　※購入時の設定	再生画像の向きを自動補正します。
OFF	再生画像の向きは補正しません。

［縦横自動回転再生］を［ON］に設定すると、再生画像の向きは以下のようになります。

カメラを横向きに置いて再生する場合：

　カメラを横にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを縦にして撮影した画像は、自動的に回転して縦に表示します。

カメラを縦向きに置いて再生する場合：

　カメラを縦にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを横にして撮影した画像、自動的に回転して横に表示します。

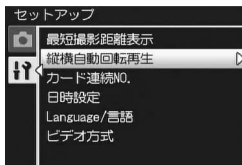
再生中にカメラの向きを変えた場合でも、再生画像はカメラの向きに応じて自動回転されます。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを▼側に押して［縦横自動回転再生］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、値を設定する

4 ADJ./OKボタンを押す

注意

- 以下の場合は、[縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、再生画像は自動回転されません。
  - ・動画モードで撮影した画像
  - ・一覧表示の場合（☞P.47）
  - ・カメラを前後に傾け過ぎている状態で撮影した画像
  - ・カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にして再生した場合
  - ・拡大再生中にカメラの向きを変えた場合
  - ・再生モードで斜め補正処理中（補正エリアが表示されている）の画像（☞P.146）
- [縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、スライドショー、テレビ再生中は、カメラを横向きに置いているものと認識されます。カメラを縦向きに置いて再生しても、横向きで撮影した画像は自動回転されません。また、再生中にカメラの向きを変えても、再生画像は自動回転されません。

メモ

以下の場合は、1枚目の画像の向きを基準として、2枚目以降も自動回転されます。

- ダイナミックレンジダブルショットで[+ 通常撮影]を[ON]にして撮影した場合
- ブラケット撮影、通常連写、M連写プラス、超高速連写、マルチターゲットAFで撮影した場合

ファイル名の設定

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

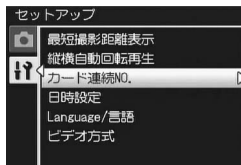
設定	内容
ON（連番にする）	撮影した静止画に、R0010001.jpg～R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを入れ替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない） ※購入時の設定	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg～RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 ファイル名がRIMG9999になると、それ以上は記録できません。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[カード連続NO.］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合は、常に［カード連続 NO.］が［OFF］の場合と同様のファイル名になります。
- DL-10を使ってパソコンに転送する（☞P.206）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、［カード連続NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（****は番号）で保存されます。

注意

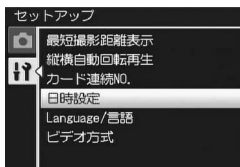
ファイル名がRIMG9999またはR9999999になると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

日時設定

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、[日時設定] を選び、▶側に押す

3 ▲▼◀▶側に押して、年・月・日・時・分・書式を設定する

- ▲▼ で設定を変更し、◀▶ で項目を移動します。

4 画面の表示を確認し、ADJ./OK ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

5 ADJ./OKボタンを押す

- 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

言語設定

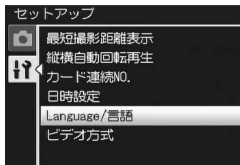
画像モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定
日本語
English（英語）

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OKボタンを▼側に押して、[Language／言語] を選び、▶側に押す

- 言語選択画面が表示されます。

3 ◀▶側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENUボタンまたはADJ./OKボタンを押す

メモ---

日本国内で販売されているCX1で選択できる言語は、日本語と英語のみです。

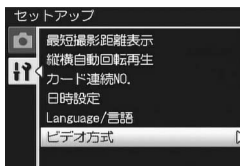
テレビでの再生方式

付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。（☞P.157）
テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
NTSC
PAL

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.160を参照してください。

2 ADJ./OK ボタンを ▼ 側に押して、［ビデオ方式］を選び、▶側に押す

3 ▲▼側に押して、設定を選ぶ

4 ADJ./OKボタンを押す

- ビデオ方式が設定され、セットアップメニューに戻ります。

メモ---

SECAM方式には対応していません。

本文中の「ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押す」という説明は、ADJ./OKボタンを上下左右の方向に押して傾けることを意味します。また、「ADJ./OKボタンを押す」という説明は、ADJ./OKボタンの真中を押し下げることを意味します。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意

AVIファイル（動画）、MPファイルは印刷できません。

メモ

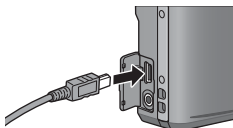
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターがPictBridgeに対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

カメラとプリンターの接続

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。
- 自動的にカメラの電源がオンになります。

メモ --

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してからUSBケーブルを外してください。

注意 --

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

静止画の印刷

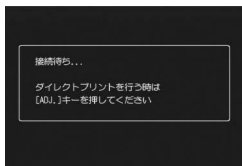
PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。

注意
印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ
- 送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。
- プリンターに接続しているのに、パソコン接続のメッセージが表示された場合は、再接続を行い、接続後2秒以内にADJ./OKボタンを押してください。

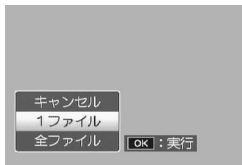
1枚またはすべての静止画を印刷する

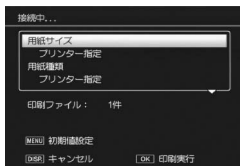
1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する
- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ./OKボタンを押す
- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、印刷したい静止画を表示する

4 ADJ./OKボタンを押す

5 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して、［1ファイル］または［全ファイル］を選ぶ

6 ADJ./OKボタンを押す
- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

7 ADJ./OK ボタンを▲▼側に押して項目を選び、▶側に押して詳細項目を表示する

- [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると[接続中･･･] が消え、[ダイレクトプリント] と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップメニューの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面／両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は1枚となります。P.195の手順6で印刷枚数を複数枚設定しても、1枚のみ印刷されます。

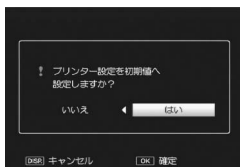
※各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。

8 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して詳細項目を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目を設定する

メモ

- 手順 7 の画面で MENU ボタンを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面が出たら、ADJ./OKボタンを◀▶側に押して［はい］を選び、ADJ./OKボタンを押してください。
- ［いいえ］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

10 ADJ./OKボタンを押す

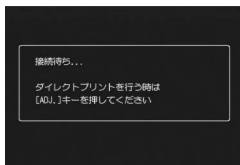
- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ズームレバーを▩（サムネイル表示）側に回す

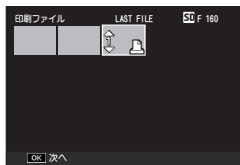
- 画面が20分割されて、静止画が一覧表示されます。

4 ADJ./OKボタンを▲▼◀▶側に押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 ADJ./OKボタンを押す

6 ADJ./OK ボタンを ▲▼ 側に押して、印刷枚数を指定する

- ▲側に押すと枚数が増え、▼側に押すと枚数が減ります。

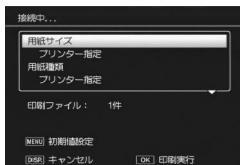
7 ◀▶側に押して、次に印刷したい静止画を選ぶ

8 ▲▼側に押して、印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して項目を選び、▶側に押して詳細項目を表示する

- [接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、[ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.194をご覧ください。

12 ADJ./OKボタンを▲▼側に押して詳細項目を選び、ADJ./OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目を設定する

14 ADJ./OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

メモ--

- プリンターのマーク（🖶）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

画面の表示は、ご使用のパソコンのOSによって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.210をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の方法があります。

1 DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用して、画像を取り込む（☞P.206）

DL-10を使用するには、付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールしておく必要があります（☞P.200）。

2 DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用せずに画像を取り込む（☞P.207）

注意 --

本カメラからWindows 98/98 SEに画像を取り込むことはできません。

メモ --

画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.203を参照してください。

付属のCD-ROMを使うために必要な環境

付属のCD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4（日本語版） Windows Me（日本語版） Windows XP Home Edition Service Pack 3（日本語版）/Professional Service Pack 3（日本語版） Windows Vista Service Pack 1（日本語版）
CPU	Windows 2000/Me/XP：Pentium® III 500MHz以上 Windows Vista：Pentium® III 1GHz以上
メモリー	Windows 2000/Me/XP：256MB以上 Windows Vista：512MB以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート

注意

- 64ビット版OSには対応していません。
- Windows 98/98 SEには対応していません。
- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OS のシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

CD-ROMの構成

付属のCD-ROMをパソコンにセットすると､インストーラー画面が自動的に表示されます。

項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.200
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.203
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.203
RICOHホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	−

[ソフトウェアのインストール]をクリックする

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
DL-10	画像をパソコンに一括取り込みします。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。
USBドライバー	リコーの過去機種とWindows 98 SE/Me/2000を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIAドライバー	リコーの過去機種とWindows XP/Vistaを接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- DC Softwareでは、従来機種に付属していたCaplio Softwareとはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
Caplio Viewer	DU-10（*）
Caplio Server	SR-10（*）
Caplio Setting	ST-10（*）

（*）本カメラでは使用しません。

従来機種の付属CD-ROMからCaplio Softwareをインストールしていた場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、Caplio SoftwareをアンインストールしてからDC Softwareをインストールするようメッセージが表示されますので、メッセージに従ってください。
Caplio Viewer、Caplio Server、Caplio Settingがインストールされていた場合は、上記のソフトウェアに置き換わり、これまでと同様に使用できます。
メッセージが表示される前にCaplio Softwareをアンインストールした場合（☞P.205）は、DC Softwareをインストールしても、DU-10、SR-10、ST-10はインストールされません。

- Caplio Softwareをアンインストールすると、RCOH Gate Laの[オプション設定]の設定内容が解除される場合があります。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- DL-10はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

メモ

本機は、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioを付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/）を参照してください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exeの実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合

- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の［許可］を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

3 言語を選択し、［OK］をクリックする

- ［DC Software用のInstallShield Wizardへようこそ］画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックする

- ［インストール先の選択］画面が表示されます。

5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする

- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。
  パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

7 ［完了］をクリックする

- DC Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］を選択して、［完了］をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

9 DL-10の［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

メモ--

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（☞P.205）

[使用説明書（ソフトウェア編）を見る]をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。
すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。

[CD-ROMの内容を見る]をクリックする

CD-ROM 内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROM には、[ソフトウェアのインストール] をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、Acrobat Readerが収められています。

Adobe Readerをインストールする

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示をするためのソフトウェアです。
Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

注意--

- インストールは、カメラとパソコンをUSB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。
- CD-ROMに同梱のAcrobat Readerは、Windows Vistaで使用すると警告が表示される場合があります。その場合は、アドビシステムズ社のホームページから最新版をダウンロードしてください。

メモ--

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 ［Acrobat］フォルダをダブルクリックする

4 ［Japanese］フォルダをダブルクリックする

5 ［ar505jpn］（ar505jpn.exe）をダブルクリックする

- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

DC Software

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル]（XP、Vistaの場合は［コントロールパネル]）を選択する

3 [アプリケーションの追加と削除] アイコン（XP の場合は[プログラムの追加と削除]アイコン)をダブルクリックする

4 [DC Software] を選択し、[変更と削除] をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

6 [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて、［はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル]（XP、Vistaの場合は［コントロールパネル]）を表示する

3 [アプリケーションの追加と削除] アイコン（XP の場合は[プログラムの追加と削除]アイコン)をダブルクリックする

4 [Irodio Photo & Video Studio］を選択し、［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする

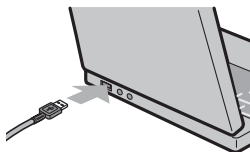
- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

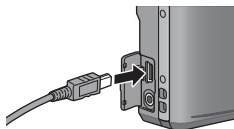
6 パソコンを再起動する

DL-10を使用して画像を一括取り込みする

ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。

4 DL-10が起動して、自動的に画像の転送が開始される

- DL-10は[マイドキュメント]フォルダの中に自動的に[Digital Camera]フォルダを作成します。取り込んだ画像は、撮影日ごとのフォルダに入れて［Digital Camera］フォルダ内に保存されます（Caplio Softwareを使用していた場合は、引き続き［Caplio］フォルダ内に保存されます）。あらかじめカメラで正しい日時を設定してから撮影してください。

5 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する（☞P.209）

メモ

画像の転送が始まらない場合は、以下の操作をお試しください。

- DL-10のウィンドウの［保存］ボタンをクリックする（初めてカメラとパソコンを接続した場合のみ）
- パソコンを再起動して1～5の操作をもう一度行う
- DL-10の［オプション設定］ダイアログボックスで［USB接続時、自動保存を行う］にチェックマークが付いているか確認する

注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

DL-10を使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

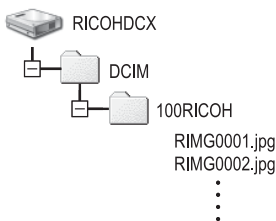
2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、[マイコンピュータ] にドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は[RICOHDCI] になります。

Windows XPでの表示例

注意

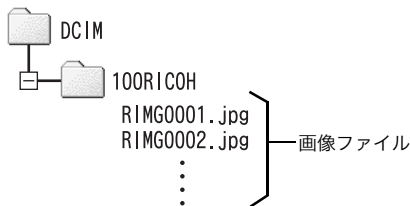
- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。

SDメモリーカードから画像を取り込む

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。

注意

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、SDメモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。(表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。)

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする

« 16:49

2 [USB大容量記憶装置デバイス] を選び、[停止] をクリックする

3 [USB 大容量記憶装置デバイス] が選ばれていることを確認して、[OK] をクリックする

4 [閉じる] をクリックする

5 USBケーブルを取り外す

メモ

- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.197をご覧ください。

本カメラは、以下のOSに対応しています。

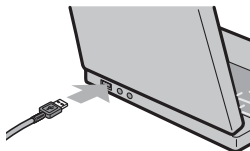
- Mac OS 9.0 ～ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ～ 10.5.5

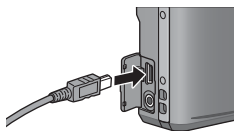
注意 --

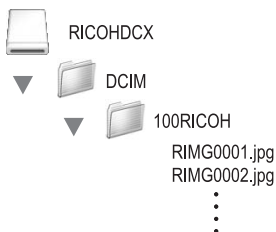
- 本カメラからMac OS 8.6に画像を取り込むことはできません。
- Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することは可能です（パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ）。

画像をパソコンに取り込む

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

注意--

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す

メモ--

- Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintoshに接続すると、SDメモリーカードに「Finder.DAT/DS_Store」が書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージ

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の参照先を確認して対処してください。

エラーメッセージ		参照先
カードをいれてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.28
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.188
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.186
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	ー
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.25
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.148
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.26
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル(動画など)です。	ー
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.51 P.162 P.163
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	P.195
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.163
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.162
使用できないカードです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.162
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	ー
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	ー
メモリー容量不足です。 記録できません。	記録可能枚数が0枚になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.25
ファイル復元可能なファイルが見つかりません。	復元できるファイルがありません。	P.156

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.28 P.27 P.228
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.30
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続しなおす。	P.228
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.28
	カメラが高温になったため、電源が自動的に切れている。	そのまま温度が下がるまで待ち、電源を再投入する。なお、急激に温度を下げることはしないでください。	ー
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.30
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.228
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.28 P.228
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリーを使う。他の電池は使用しないでください。	P.24
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいリチャージャブルバッテリーに交換する。	P.28
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.228
	電源が入っていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.30
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.45
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.35
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.162
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.28 P.51
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.28
	フラッシュが充電中。	フラッシュモードのマークの点滅が終了するまで待つ。	P.42
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	−
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.176
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.30 P.164
	ビデオケーブル／AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／AVケーブルを抜く。	−
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.55
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	−
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.35
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.35 P.101
ピントが合っていないのに、画像モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.40

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。(手ブレマークが表示される)	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.33 P.116
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.42 P.123 P.116
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • ブラケット撮影 • 連写モード • 動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている場合がある。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.42 P.107 P.103 P.85 P.90
	フラッシュが発光禁止になっている。	発光禁止を解除する。	P.42
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.228
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、フラッシュの光が届く範囲を超えている。	被写体に近づいて撮影する。ISO感度を変更する。	P.42 P.123
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.119
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.106
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。または、被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.42 P.106
	露出がオーバーしている。（[!AE] マークが表示される）	露出補正を行う。 長時間露光を解除する。	P.119 P.111
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.164
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	発光禁止を解除する。	P.42
	露出が不足している。	露出補正を行う。 長時間露光を設定する。	P.119 P.111
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.164
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.120

症状	原因	処置	参照先
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.55
AF動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	ー
水平インジケーターが表示されない。	[水準器設定]を[OFF]または[音のみ]に設定している。	[水準器設定]を[表示のみ]または[表示+音]に設定する。	P.181
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP.ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.55
	カメラが上下逆さま(シャッターボタンが下向き)になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.45
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.157
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.190
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	ー
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.28 P.162
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	ー
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	ー
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.228
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.30
画面の一部が黒く点滅する。	画像に白飛びの部分があるため、ハイライト表示になっている。	直射日光を避ける、露出をー側に補正するなどして、撮り直すことをお勧めします。	P.56 P.119
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.148
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.26

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.28
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.27 P.228
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.30
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.28 P.228
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.188
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.188
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.177
操作音が鳴らない。	消音が設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.175
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.190
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.157
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	ー

ソフトウェア／パソコンのトラブル

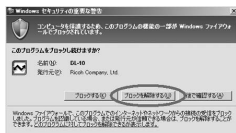
ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack3、Windows Vistaでの警告メッセージについて

Windows XP Service Pack3またはWindows Vistaがインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下のような警告メッセージが表示される場合があります。以下を参考にしてください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

警告メッセージが表示されたら

1 名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

注意 --

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windowsファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windowsファイアウォール］をダブルクリックする

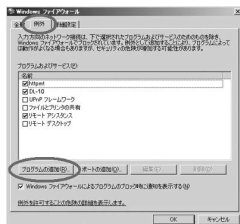
- ［Windowsファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

付録

10

3 ［例外］タブをクリックする

4 ［プログラムおよびサービス］内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 ［プログラムの追加］ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する

［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

主な仕様

カメラ部有効画素数		約929万画素
撮像素子		1/2.3型CMOS（総画素数約1029万画素）
レンズ	焦点距離	4.95〜35.4mm（35mm換算値28〜200mm）
	F値	F3.3〜F5.2
	撮影距離範囲	通常撮影：約30cm〜∞（広角）、約1.0m〜∞（望遠）（レンズ先端から）
		マクロ撮影：約1cm〜∞（広角）、約25cm〜∞（望遠）、約1cm〜∞（ズームマクロ）（レンズ先端から）
	レンズ構成	7群10枚（非球面レンズ5面4枚）
ズーム倍率		光学ズーム7.1倍、デジタルズーム4.8倍、オートリサイズズーム約5.7倍（画像はVGA）
フォーカスモード		マルチAF（コントラストAF方式）／スポットAF（コントラストAF方式）／マルチターゲットAF／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（AF補助光あり）
ブレ軽減機能		イメージセンサーシフト方式ブレ補正機能
シャッタースピード	静止画	8秒、4秒、2秒、1〜1/2000秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。）
	動画	1/30〜1/2000秒
露出制御	測光モード	マルチ（256分割）／中央重点測光／スポット測光
	露出制御モード	プログラムAE
	露出補正	マニュアル補正（+2.0〜–2.0EV 1/3EVステップ）、オートブラケット機能（–0.5EV、±0、+0.5EV）
ISO感度（標準出力感度）		AUTO／AUTO-HI／ISO 80／ISO 100／ISO 200／ISO 400／ISO 800／ISO 1600
ホワイトバランスモード		オート／マルチパターンAUTO／屋外／曇天／白熱灯／白熱灯2／蛍光灯／手動設定、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／発光禁止
	調光範囲	約20cm〜3.0m（広角）、約25cm〜2.0m（望遠）（ISO AUTO／ISO 400、レンズ先端から）
	調光補正	±2.0EV 1/3EVステップ
画像モニター		3.0型 透過型液晶、約92万ドット
撮影モード		オート撮影モード／イージー撮影モード／シーンモード（ポートレート／フェイス／スポーツ／夜景ポートレート／遠景／夜景／高感度／ズームマクロ／斜め補正／文字）／マイセッティングモード／動画モード／ダイナミックレンジダブルショットモード／連写モード
画質モード*1		F(Fine)、N(Normal)

記録画素数	静止画	3456×2592、3456×2304、2592×2592、3072×2304、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
	マルチピクチャー	3456×2592、3456×2304、2592×2592、3072×2304、2592×1944、2048×1536、1728×1296、1280×960、640×480
	動画	640×480、320×240
	文字	3456×2592、2048×1536
記録媒体		SDメモリーカード、SDHCメモリーカード（32GBまで）、内蔵メモリー（約88MB）
記録データ容量	3456×2592	N：約1955KB／画面、F：約3371KB／画面
	3456×2304	F：約2998KB／画面
	2592×2592	F：約2533KB／画面
	3072×2304	N：約1569KB／画面
	2592×1944	N：約1151KB／画面
	2048×1536	N：約763KB／画面
	1728×1296	N：約577KB／画面
	1280×960	N：約447KB／画面
	640×480	N：約106KB／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*2
	マルチピクチャー	CIPA DC-X007-2009 マルチピクチャフォーマットDRAFT準拠
	動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写、セルフタイマー（作動時間：約10秒／約2秒／カスタムセルフ）、インターバルタイマー（撮影間隔：5秒～1時間、5秒単位）*3、カラーブラケット、フォーカスブラケット、最小絞り固定、AE/AFターゲット移動、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、電子水準器
その他主要再生機能		一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大16倍）、画像サイズ変更、レベル補正、ホワイトバランス補正、斜め補正、トリミング、画像クリップ、スライドショー、DPOF設定
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ対応*4、AV OUT 1.0Vp-p（75Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL切替え
電源		リチャージャブルバッテリー（DB-70）：3.6V
		ACアダプター（AC-4g オプション）：3.8V
電池寿命*5		CIPA規格準拠 DB-70使用時：約300枚（[画像モニター節電] が [ON] のとき*6）
外形・寸法		101.5mm（幅）×58.3mm（高さ）×27.9mm（奥行き）（突起部含まず）
質量		本体約180g（バッテリー／SDメモリーカード／ストラップを除く） 付属品約23g（バッテリー／ストラップ）
三脚ネジ穴形状		1/4-20UNC

デート保持時間	約1週間
使用温度範囲	0℃～40℃
使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	–20℃～60℃

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 DCF準拠、DPOF対応。DCFはJEITAで標準化された「Design rule for Camera File system」の略称です。(機器間の完全な互換性を保証するものではありません)
*3 フラッシュ OFF時
*4 マスストレージは、Windows Me, 2000, XP, Vista, Mac OS9.0～9.2.2, Mac OS X 10.1.2～10.5.5に対応しています。
*5 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
*6 [画像モニター節電] が [OFF] の場合は、約270枚となります。

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質・サイズ	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
SCENE（文字以外） EASY （連写）	F3456(9M)	24	266	539	1058	2163	4335	8695
	N3456(9M)	43	461	931	1828	3737	7487	15020
	F3:2(8M)	28	300	608	1195	2442	4893	9815
	F1:1(6M)	33	355	723	1419	2902	5814	11662
	N3072(7M)	53	575	1159	2277	4654	9324	18704
	N2592(5M)	73	785	1576	3094	6325	12671	25418
	N2048(3M)	109	1184	2363	4640	9486	19005	38125
	N1280(1M)	181	1948	3840	7541	15415	30882	61951
	N640(VGA)	705	7553	15359	30159	61643	123489	247716
（[フォーカス]が[マルチターゲットAF]のとき）	F3456(9M)	23	255	516	1014	2073	4152	8330
	N3456(9M)	40	428	865	1699	3474	6960	13962
	F3:2(8M)	26	285	579	1138	2327	4662	9352
	F1:1(6M)	31	335	683	1341	2741	5491	11014
	N3072(7M)	48	521	1059	2080	4253	8520	17091
	N2592(5M)	64	694	1397	2743	5606	11231	22529
	N2048(3M)	91	990	1981	3892	7956	15940	31976
	N1280(1M)	136	1473	2926	5746	11745	23530	47202
	N640(VGA)	312	3357	6827	13407	27404	54898	110125
SCENE（文字）	3456×2592	43	461	931	1828	3737	7487	15020
	2048×1536	109	1184	2363	4640	9486	19005	38125
	640×480（15コマ／秒）	1分42秒	18分20秒	37分17秒	76分41秒	149分40秒	299分50秒	601分28秒
	640×480（30コマ／秒）	51秒	9分15秒	18分49秒	38分41秒	75分31秒	151分18秒	303分31秒
	320×240（15コマ／秒）	4分19秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒	757分18秒	1519分7秒
	320×240（30コマ／秒）	2分12秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒	387分39秒	777分37秒
（M連写プラス）	N1728(2M)	143	1548	3072	6033	12332	24706	49561
（超高速連写）	N640(VGA)	705	7553	15359	30159	61643	123489	247716

付録

10

メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間の目安です。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 連写の最大連続撮影可能枚数は、999枚です。残り記録枚数が1000枚以上ある場合でも、画像モニターには「999」と表示されます。
- M連写プラス、超高速連写の記録可能枚数は、合計の記録可能枚数の目安です。1回の撮影での最大連続撮影可能枚数は、M連写プラスは30枚、超高速連写は120枚までです。
- マルチターゲットAFの記録可能枚数は、合計の記録可能枚数の目安です。1回の撮影での記録可能枚数は、7枚です。残り記録枚数が9999枚以上ある場合でも、画像モニターには「9999」と表示されます。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

初期値／電源オフで初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。
次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
撮影	画質・サイズ	○	N3456(9M)
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	3456(9M)
	動画サイズ	○	640
	フレームレート	○	30コマ／秒
	フォーカス	○	マルチAF
	測光	○	マルチ
	画像設定	○	普通
	フラッシュ調光補正	○	0.0
	ダイナミックレンジ拡大効果	○	弱
	＋通常撮影	○	OFF
	オートブラケット	○	OFF
	長時間露光	○	OFF
	カスタムセルフ	○	撮影枚数：2枚、 撮影間隔：5秒
	最小絞り固定	×	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	手ブレ補正	○	ON
	スローシャッター速度制限	○	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	マルチパターンAUTO
	ISO感度	○	AUTO
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	AUTO
	セルフタイマー	×	セルフ　オフ
再生	音量	○	ー

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

	機能		初期値
セットアップ	画像モニター輝度調節	○	ー
	マイセッティング登録	○	ー
	ステップズーム	○	OFF
	Fnボタン設定	○	マクロターゲット
	ADJ.ボタン設定1	○	露出補正
	ADJ.ボタン設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.ボタン設定3	○	ISO
	ADJ.ボタン設定4	○	画質
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO 400
	AF補助光	○	ON
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	■■□（中）
	画像確認時間	○	0.5秒
	オートパワーオフ	○	1分
	画像モニター節電	○	ON
	デジタルズーム切替	○	通常
	水準器設定	○	表示のみ
	撮影情報表示フレーム	○	OFF
	最短撮影距離表示	○	表示
	縦横自動回転再生	○	ON
	カード連続NO.	○	OFF
	日時設定	○	ー
	Language／言語	○	(*1)
	ビデオ方式	○	(*1)

(*1) 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

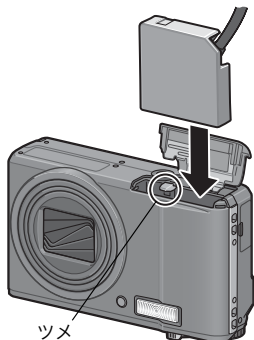
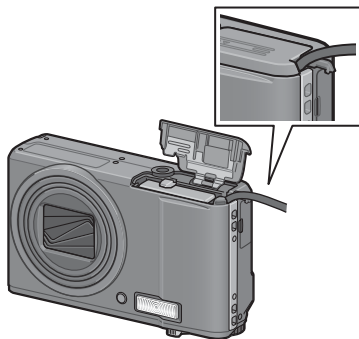
ACアダプターについて（別売り品）

動画撮影やインターバル撮影をする際、画像を見る際などカメラを長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、別売りのACアダプターを使うことをお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 バッテリー／カードカバーをスライドさせて開ける

3 ACアダプターを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

4 電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

5 バッテリー／カードカバーを閉じる

6 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターをご使用の場合、[電池アイコン]表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- ACアダプターの使用中は、ACアダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

ACアダプターを取り出すには

ACアダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。
電源プラグをコンセントから抜き、バッテリー／カードカバーをスライドさせて開けます。ACアダプターをロックしているツメをずらすとACアダプターが押し出されますので、つまんで取り出します。このときACアダプターが落下しないよう十分に注意してください。

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4g）、バッテリーチャージャー（型名：BJ-7）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。
付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。結露が発生した場合は、カメラから電池とメモリーカードを取り出し、水滴が消えるまで待ってから使用してください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。
- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手でカメラを操作しないでください。故障や感電の原因となります。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナー（有機溶剤の含まれていないもの）を、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。
  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、当社修理受付窓口かお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   (1)使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障
   (2)使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障
   (3)火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障
   (4)浸（冠）水、塩害、液体 (雨水、ジュース、酒類等）かぶり、落下、衝撃、砂（泥）入り、圧力等による自然故障以外の故障
   (5)保管上の不備（使用説明書に記載)、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障
   (6)保証書の添付のない場合
   (7)販売店名、ご購入年月日等の記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
5. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
6. メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについて一切の保証はできませんので、修理にお出しになる場合には、データのバックアップをお取りください。
7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本製品の使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
9. 販売店が独自に設けている延長保証は、本製品の保証規定には適用されません。
10. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
11. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。
12. 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございます。

修理にお出しになる前

- バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- ホームページに最新の情報が掲載されていますのであわせてご確認ください。ホームページのアドレスは、使用説明書の巻末に記載されています。

修理にお出しになる際

- 故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。

索引

記号・英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

お願い

1.「リコー修理受付センター」ならびに「カメラサービスセンター」では、デジタルカメラの故障に関する事項、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。
2. 修理以外の、製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せは、「リコーお客様相談センター」までお願い申し上げます。
3. 修理に関する詳細につきましては、本使用書の「保証規定」ならびに、「アフターサービスについて」をご一読いただきますようお願いします。
4.「リコー修理受付センター」ならびに各「リコーカメラサービスセンター」への修理のお申し込みは、日本国内のみ有効です。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。
デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

ホームページによる情報提供

■ **製品情報**
http://www.ricoh.co.jp/dc/

■ **Ricoh Photo Style（活用&コミュニティ）**
http://www.ricoh.co.jp/dc/photostyle/

■ **サポート総合案内**
http://www.ricoh.co.jp/dc/support/

■ **修理総合案内（修理料金概算などの修理全般の情報）**
http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

お困りのときは

使用説明書の「お困りのときは」をご覧ください。問題が解決しないときには、下記にてご確認ください。

■ **よくあるご質問（FAQ）**
製品の操作・活用について　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/faq/
故障かなと思ったら　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/faqs/

■ **リコーお客様相談センター**
ホームページ受付　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/contact/
電話：0120-000475　FAX：0120-479417
受付時間：9:00～18:00（土曜、日曜、祝祭日、弊社休業日を除く）
※ なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。

■ **「Irodio Photo & Video Studio」について**
株式会社ピクセラ　電話：06-6633-3900
受付時間： 月曜日～日曜日10:00～17:00
（年末年始、祝祭日、株式会社ピクセラ指定休日は除く）

修理受付

■ **ホームページ／電話による修理受付**
（梱包材と宅配伝票をお送りして修理品をお引き受けします）

リコー修理受付センター（リコーテクノシステムズ株式会社）
<ホームページ受付> http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/mail.html
<電話受付> 0120-053956　受付時間 9:00～17:00
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

■ **持ち込みによる修理受付**
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

リコー銀座カメラサービスセンター
〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-7 第3リコービル 1階
受付時間 9:30～17:00　電話 03-3543-4187

リコー新横浜デジタルカメラサービスセンター（リコーテクノシステムズ株式会社）
〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 新横浜ファーストビル3階
受付時間 9:30～18:00　電話 045-474-2586

リコー大阪カメラサービスセンター
〒564-0053　大阪府吹田市江の木町34-5 リコービル7階
受付時間 9:30～17:00　電話 06-6338-9092

株式会社リコー
〒104-8222
東京都中央区銀座8-13-1リコービル
2009年3月

L752 1971

JA Printed in China